

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学I (被服構成)						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業では、衣服の構成に関する根本的な事項の理解を促す。生産方式などによる衣服の分類、人体計測、原型の種類と参考寸法、原型とパターンの作図、パターンメイキング手法、部位の名称などの衣服構成に必要な基本要素について概説する。さらに、生地や紙などで身の回りにある立体物を包み、それを平面に展開し、構造を確認する作業からどのようなラインがどのようなフォルムになるのか、といった立体と平面との関係を捉えさせ、身体を包みこむ衣服のパターンと比較、分析させる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 . 授業全般に関するオリエンテーション 2 . 衣服の定義、衣服構成に必要なとする基本要素に関する理解。 3 . 人間工学的衣服設計（人体と衣服の関係）に関して説明する。 4 . 人間の形体的特性、外形、体表区分などの理解 5 . 人体の構成及び運動機具（骨格系、筋肉系、皮膚系、神経系の理解および関節運動による皮膚面の変化）に関して説明する。 6 . 人体計測方法（マルチン計測、体表角度計、スライディングゲージ、カメラ法、3次元計測など）について説明する。 7 . 体型の形成と分類の理解 8 . 人体の形体と衣服設計（衣服設計時考慮すべき人体特性及び動作適合性との関係把握）に関して説明する。 9 . 衣服製作およびアパレル生産システムの理解 10 . パターンの種類や裁断方法（平面、立体裁断）について説明する。 11 . 衣服原型の作図（身頃原型、袖原型、スカート原型） 12 . 衣服原型の展開 13 . ファッション素材の企画（素材企画の概念と特性の理解、情報収集の必要性およびマーケットリサーチ過程） 14 . 縫製及び仕上げに関する理解（ミシンとステッチの種類および仕上げ） 15 . 授業のまとめ、評価、試験：前期の内容を見直し復習する。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	配布プリント、スライドの内容にそって講義する。
評価方法 Evaluation	発表、レポート、試験、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	原則、欠席・遅刻なし（やむをえない場合は、2/3以上の出席）。
教科書 Textbook(s)	アパレル設計・生産論 Clothing Construction 社団法人 日本衣料管理協会
参考書 Reference(s)	授業中に紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学II (材料)						
担当教員	横山 早美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	布（繊維集合体）は、繊維、空気、水分から成る複合材料である。繊維の性質と集合体構造により決定される布の性質が被服材料としての要求性能を満足していることを理解する。現代の衣生活を支える被服材料の歴史、多種多様な材料と性能、被服の目的・用途に応じた最適材料の選択、素材から一次・二次製品への過程、繊維製品の組織、製造法、加工法などについて、日常生活の衣料の選択、使用、管理の場でこうした知識を応用、発展させることにより衣生活をより豊かなものにすることを期待する。
授業計画 Syllabus	第1回：被服材料とは 第2回：被服材料の種類 第3回：被服材料の歴史と繊維製品の生産と消費の動向 第4回：天然繊維の成り立ちについて（1） 第5回：天然繊維の成り立ちについて（2） 第6回：化学繊維の成り立ちについて（1） 第7回：化学繊維の成り立ちについて（2） 第8回：被服材料に要求される性能 第9回：被服材料の性能を支配する要素 第10回：保健衛生的性能（1） 第11回：保健衛生的性能（2） 第12回：外観・形態安定性能（1） 第13回：外観・形態安定性能（2） 第14回：被服材料の性能改善と新素材 第15回：まとめ・期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義では、スライドやビデオを使用し、わかりやすい内容に工夫します。
評価方法 Evaluation	試験（60%）、授業中課題（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	授業中は私語を慎んでください。 欠席はできるだけしないようにしてください。
教科書 Textbook(s)	毎回の講義中で資料を配布します。
参考書 Reference(s)	日下部信幸著；生活のための被服材料学 家政教育社
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学III (管理・衛生)						
担当教員	横山 早美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	衣服はヒトの身体を気候の変化から保護する基本的な機能を果たす。ヒトの皮膚や体温の生理的機能と温度・湿度、被服材料の性質の関係に基づき、快適、衛生的で効率的な衣生活のための被服管理と被服衛生について、被服の洗浄と洗剤、洗濯機と洗濯の条件、漂白・しみ抜き、洗濯後の仕上げと保存、繊維製品の取り扱い、被服の衛生的条件、被服による気候調節、被服の熱的・水分性能と保温性・快適性、被服の運動機能性、被服の安全性などの基礎を学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 被服管理・衛生について「洗濯は、なぜ必要か」 第2回 被服の汚れ 「汚れの種類・性質・付着機構」 第3回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗濯用水）について」 第4回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗剤）について」 第5回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗濯方式）について」 第6回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（水系①）」 第7回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（水系②）」 第8回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（非水系）」 第9回 洗浄力試験法 「洗浄力試験と評価」 第10回 漂白と増白 「漂白剤の種類とその作用」 第11回 しみ抜き 「しみ抜きの原理と除去方法について」 第12回 被服の仕上げ 「糊付けと柔軟仕上げ」 第13回 被服の保管 「保管中の損傷の種類とその原因」 第14回 被服の保管 「保管中の保存法」 第15回 まとめ・期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポート・小テスト（40%）と期末テスト（60%）の総合評価です。
履修上の注意 Requirements and policy	授業中は私語を慎んでください。 欠席はできるだけ避けてください。
教科書 Textbook(s)	毎回の講義で資料を配布します。
参考書 Reference(s)	吉永フミ, 多田千代, 西出伸子 共著: 新版 被服整理学 その実践: 光生館 中西茂子, 岩崎芳枝, 齊藤昌子, 他2名: 被服整理学: 朝倉書店
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	川嶋 守彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>アート、とりわけ絵画には言葉や言語を介さずに自らのイメージの持つ力で他者とのコミュニケーションの可能性を示すものであり、日々の会話やジェスチャーと同じ表現の一形態にすぎません。</p> <p>その具体的手段を当授業での実習を通して学びます。</p> <p>簡単なデッサンから始め、着彩、構図、また着想の仕方や構想の展開法を毎回設定されたテーマから体験します。</p> <p>実際に手を使って物と向き合いイメージを定着する体験から各自の思考や個性を見出して、あらゆる表現に積極的に且つ、スムーズに関わることが出来るようになることを目的としている。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス (授業内容の説明)</p> <p>第2回 石膏デッサン (簡単な幾何模型を用いたデッサン)</p> <p>第3回 石膏デッサン</p> <p>第4回 静物デッサン (身の回りの物をモチーフとしたデッサン)</p> <p>第5回 静物デッサン</p> <p>第6回 着彩 (アクリル絵具による静物画)</p> <p>第7回 着彩</p> <p>第8回 イメージの抽象化 (静物画をもとにした抽象化の考察)</p> <p>第9回 半分名画 (名画から発想する絵画)</p> <p>第10回 10のインスピレーション (10パターンのイメージング)</p> <p>第11回 イメージの発見、発掘 (カメラを使った制作)</p> <p>第12回 アートを観賞する (美術施設へのアートツアー)</p> <p>第13回 自由制作構想 (各自がテーマを見つけ出し具体化の構想を練る)</p> <p>第14回 自由制作 (自らが見つけたテーマで制作)</p> <p>第15回 自由制作 (自らが見つけたテーマで制作とその講評)</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	実習						
評価方法 Evaluation	出題テーマに対する理解、応用、技術40% 課題達成30% 課題に取り組む姿勢、態度30%						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1)履修対象者 絵画、芸術的なものに興味がある、または習得したい人。</p> <p>(2)授業内の技法、用具について 鉛筆デッサン、アクリル絵具は必修となるが、油彩を初めとするその他の技法は、各自の表現方法による選択とする。また、制作に必要な道具や材料は各自が事前に用意すること。詳しくはガイダンスにて。</p> <p>(3)10回以上の出席がないと、受講資格を失います。</p>						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	坂上 義太郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	阪神間には、近・現代のアート画において多彩で歴史的な蓄積がある。そのなかでも、殊にファッションやハウジングあるいは日常的な住いや人々の生活に関連の深いアートについて、できる限り実際の作品に触れ、現地（博物館、美術館、各種施設）での見学を実施しながら歴史と風土について学習する。これらを通して、阪神間のアートの現状を認識するとともに、ファッションやハウジングにおけるデザインの可能性をも考察し、アートとデザインの関連について、幅広い視野に立ったデザイン能力を育む。						
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 現代アートとデザインについて 第2回 阪神間のパブリックアートについて 第3回 神戸メリケンパークの彫刻探訪 第4回 メリケンパーク内、野外彫刻の調査報告・発表（質疑応答） 第5回 花と彫刻の街づくり探訪（神戸東遊園地） 第6回 花と彫刻の街づくりについての調査報告・発表（質疑応答） 第7回 阪神間の博物館・美術館の特徴について 第8回 神戸ファッション美術館・神戸ゆかりの美術館見学 第9回 美術館見学の報告・発表（質疑応答） 第10回 阪神間の食文化について 第11回 神戸シューズと映画文化について 第12回 長田にある「シューズプラザ」と「神戸映画資料館」の見学 第13回 「シューズプラザ」「映画資料館」見学の報告・発表（質疑応答） 第14回 阪神間の歴史的建築物について 第15回 おわりに 阪神間文化の過去・現在・未来						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	教材提示装置による映像などを交えた講義						
評価方法 Evaluation	小レポート20% 中間レポート30% 発表50%						
履修上の注意 Requirements and policy	講義内容に関する作品（美術、建築、書籍、映画、音楽、ファッションなど）の自主的な鑑賞を希望する。 学外見学・研修内容 (1) 神戸メリケンパーク／パブリックアートの見学 (2) 神戸東遊園地／花と彫刻の町づくりの見学 (3) 神戸ファッション美術館・神戸ゆかりの美術館／神戸のアートの見学 (4) シューズプラザ・映画映画資料館／神戸の地場産業と映画史の見学						
教科書 Textbook(s)	使用しない。資料プリントを適宜配布する。						
参考書 Reference(s)	『阪神観』 1993年 東方出版 刊 ISBN4-88591-364-0 C0072 『阪神間モダニズム』 1997年 談交社 刊 ISBN-13:978-4885914102						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッション・ハウジングの各デザイン領域において、幾何学、構造、人と空間の関係は尺度を越えた共通基盤である。本実習はこれらの要因への導入を目的として、幾何学形態と身体の関係性を、主としてファッション領域から理解する。実習内容として、ファッション・建築作品に見られる幾何学形態について学び、幾何学形状の布を用いた着装可能な立体構成を試みる。平面の布を様々な手法によって立体的に構成し、身体に即した美的な構造物としての可能性を探ることで、人・布・構造について実践的に学び、発想力、構築力を習得する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1. イメージリテラシーIで何を学ぶのか： 15回の授業内容について説明する。図形から発想されたデザインを紹介し、その技法と特徴について解説する。アイロン、ミシンなど用具の使い方を知る。 試作用ボディーを用い、図形の布を自由に造形する。(作品写真を撮る)</p> <p>2. 矩形の習作「試作」： 試作用ボディーを用いて矩形の課題作品を試作し、全体のバランスを確認する。 試作品の写真を撮る。</p> <p>3. 矩形の習作「実寸製作」： 課題作品を実寸サイズで試作する。</p> <p>4. 矩形の習作「実物製作」： 課題作品を実物製作する。 型紙どおりに布を裁断し、縫製する。</p> <p>5. 矩形の習作「実物製作・まとめ」： 課題作品を仕上げる。 実物作品の写真を撮る。作品発表・講評会を行う。</p> <p>6. 円の習作「試作」： 試作用ボディーを用いて円形の課題作品を試作し、全体のバランスを確認する。 試作品の写真を撮る。</p> <p>7. 円の習作「実寸製作」： 課題作品を実寸サイズで試作する。</p> <p>8. 円の習作「実物製作」： 課題作品を実物製作する。 型紙どおりに布を裁断し、縫製する。</p> <p>9. 円の習作「実物製作・まとめ」： 課題作品を仕上げる。 実物作品の写真を撮る。作品発表・講評会を行う。</p> <p>10. 自由製作「試作」： 試作用ボディーを用い、矩形、円、三角形の布で「自由製作」作品を試作する。 試作品の写真を撮る。</p> <p>11. 自由製作「実寸製作」： 「自由製作」作品を実寸サイズで試作する。</p> <p>12. 自由製作「実物製作」： 「自由製作」作品を実物製作する。 型紙どおりに布を裁断し、縫製する。</p> <p>13. 自由製作「実物製作」： 「自由製作」作品を仕上げる。 実物作品の写真を撮る。</p> <p>14. 作品ファイル製作： 矩形の習作、円の習作、自由製作の作品写真をファイルにまとめる。</p>

授業計画 Syllabus	15. まとめ： 「自由製作」作品発表・講評会を行い、授業のまとめをする。 矩形の習作、円の習作、自由製作の作品、ファイルを提出する。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出（70%）、出席・授業態度(30%)で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	作品提出期限を厳守し、授業を2/3以上出席すること(実習のため、欠席・遅刻なしを原則とする)。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	材料費(布など)は自己負担とする。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	中村 博明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物の制作を行なう。イメージやコンセプトを具体的な物として実現するプロセスに習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは素材に対する想いを育むことを目的とする。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：授業の内容・目標の説明。石ころや雑草をよく観察して細密な絵を描く。</p> <p>第2回：木と他素材（真鍮、アクリ等）を組合わせて作るペンダント等のデザインをする。</p> <p>第3回：ペンダントの制作（図面作成）</p> <p>第4回：ペンダントの制作（部品制作）</p> <p>第5回：ペンダントの制作（組み立て）</p> <p>第6回：ペンダントの制作（整形）</p> <p>第7回：ペンダントの制作（仕上げ）</p> <p>第8回：ケント紙と特殊塗装で作る小箱のデザインをする。</p> <p>第9回：小箱の製作（図面作成）</p> <p>第10回：小箱の制作（部品型紙作成）</p> <p>第11回：小箱の制作（部品制作）</p> <p>第12回：小箱の制作（組み立て）</p> <p>第13回：小箱の制作（整形）</p> <p>第14回：小箱の制作（塗装下地）</p> <p>第15回：小箱の制作（仕上げ）</p>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	実習を中心にして適宜講義を行なう。
評価方法 Evaluation	各課題作品の評価：70%、製作態度：30% 欠席は減点対象とする。
履修上の注意 Requirements and policy	作業に適した服装で出席すること。 材料費を徴収する。（900円程度）
教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションデザイン (ファッションおよびテキスタイルデザイン) に必要なスキルを身につける。 ファッションデザインでは、身体の立体感やプロポーション、動きを理解することが重要である。ここでは、人物デッサン、クロッキー、描画テクニックなどファッション・ドローイングの基本となる実習を行う。また、マーカーやパステル、水彩、アクリルなど各種画材の特性を把握させ、衣服のフォルム、色彩、素材感、バランスなどを表現する描写テクニックを養成する。最終的に、イメージしたデザインを最も効果的に現す技術の習得を目標とする。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「授業の進め方及び方針の説明」 2. 物体の観察及びデッサン線の練習 3. 明暗・立体感の表現 4. 人体のプロポーション及び動きの理解 5. 人物デッサン① (顔・手・足など) 6. 人物デッサン② (ポーズ) 7. 人物デッサン③ (クロッキー) 8. 衣服の表現 9. イメージマップ作成① 10. イメージマップ作成② 11. 彩色① (水彩、パステル) 12. 彩色② (マーカー、アクリル) 13. 彩色③-1 (Photoshop & Illustrator ツール使用) 14. 彩色④-2 (Photoshop & Illustrator ツール使用) 15. 作品完成及び評価 (フォトフォリオプレゼンテーション) 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って実習する。						
評価方法 Evaluation	作品提出 (30%) およびレポート (20%)、出席状況 (50%) を加味する。						
履修上の注意 Requirements and policy	実習の為、原則、欠席・遅刻なし。やむをえない場合は、2/3以上の出席。作品を必ず提出すること。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。参考書は、授業中に紹介。						
参考書 Reference(s)	クロッキー帳、ボード、A3サイズのファイル、絵具 (色鉛筆、マーカー) などを準備すること						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>パソコンのグラフィック・ソフトを利用したヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎実習を行います。</p> <p>タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムなどの視覚言語の要素的性質を理解し、実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定したポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれた美的なイメージをデザインできることを目標とします。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1: オリエンテーション システム・教室の使い方、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインについて</p> <p>2: Illustratorの基本操作</p> <p>3: タイポグラフィ・デザイン -1-</p> <p>4: タイポグラフィ・デザイン -2-</p> <p>5: ピクトグラム・デザイン -1-</p> <p>6: ピクトグラム・デザイン -2-</p> <p>7: ダイアグラム・デザイン</p> <p>8: Photoshopの基本操作 -1-</p> <p>9: タイポグラフィ中心のポスター</p> <p>10: ピクトグラムを活用したポスター</p> <p>11: Photoshopの基本操作 -2-</p> <p>12: 図像を効果的に構成したポスター</p> <p>13: リーフレット・デザイン -1-</p> <p>14: リーフレット・デザイン -2-</p> <p>15: 作品講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	提出作品を評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。
教科書 Textbook(s)	特に教科書は指定しません。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	吉田 文男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	デザイン関連の基礎学習として、空間認識向上面で製図とは異なった意味で模型制作は重要であり、特にハウジング分野では習熟すべき不可欠のスキルである。本実習では2年次以降の多様な模型制作のスタートとしてあるいはパソコンによるCGなどでは表現しにくい空間イメージ掌握を目的に、初歩的な模型制作を行う。実習内容は、模型制作の意味の解説と材料や実際の模型作品の紹介から始めて、インテリアと家具模型、住居、店舗などを紙やステレンボードなどの材料で制作していく。
授業計画 Syllabus	第1回 建築模型制作の基礎についてのガイダンス 第2回 実習課題1「サイコロ模型の制作」 第3回 実習課題2「茶室の起し絵模型の制作」課題説明と模型制作 その1 第4回 実習課題2 模型制作 その2 第5回 実習課題3「木構造軸組模型制作」課題説明と模型制作 その1 第6回 実習課題3 模型制作 その2 第7回 実習課題3 模型制作 その3 第8回 実習課題3 模型制作 その4 第9回 実習課題3 模型制作 その5 模型完成、及び提出 第10回 実習課題4 「心地よい空間」課題説明とスケッチ 模型制作 その1 第11回 実習課題4 模型制作 その2 第12回 実習課題4 模型制作 その3 完成、提出 第13回 実習課題5 「小住宅(別荘)」課題説明と模型制作 その1 第14回 実習課題5 模型制作 その2 第15回 実習課題5 模型作品の発表と講評会。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常の課題提出と最終課題の出来映えに、平常点である受講態度等を加味して総合的に判断をする。実習であり、課題は出席して授業時間に説明を聞かないと作業は進めない。故に欠席は減点とする。(評価比率: 平常課題40%、最終課題30%、平常点30%)
履修上の注意 Requirements and policy	建築模型の基礎的なことを学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し締切厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとしてカッターナイフ(OLFA SAC・1細工カッター)、ステレンのり、木工ボンド、マスキングテープ18mm幅、エスキス用グリッド用紙。ステレンボード2mm厚、3mm厚、5mm厚、(サイズB4)、各2枚、KMKケント(イラストレーションボード サイズB4 両面白 1mm厚)2枚、虫ピン針、裁縫用指ぬき(必ず必要)、ピンセット等があります。 詳細については授業中に説明します。
教科書 Textbook(s)	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>インテリアスペースや住空間をデザインするためには、製図板やCADでの製図をする前や合間に、頭に描いたイメージをまず、手描きのドローイングでスケール感やプロポーションをできるだけ正しくとらえ、表現してみることが重要である。この授業では、平面図・立面図・断面図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1点透視図法などの基本を学びながら、デザインに必要な様々なドローイングのスキルを身につけるための課題に取り組む。また課題の題材については、デザイン・リサーチを行って理解を深め、ドローイング課題とともに発表、講評する形式で授業をすすめる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンスおよびインテリアの考え方について。図法を用いた家具のスケッチの練習。</p> <p>第2回 様々な椅子のデザインを表現する。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法（アクソメ、アイソメ、キャビネット等）を用いたドローイングを描く。</p> <p>第3回 様々な椅子のドローイングに、着彩（色鉛筆）と文字による補足を加え、トータルにデザインを表現する。「一人暮らしのインテリア」課題説明。インテリアエレメントのデザイン・リサーチ（資料収集と実測）の方法を説明。</p> <p>第4回 インテリアエレメントについて、リサーチした資料と方針をレポートにまとめる。</p> <p>第5回 レポート発表。平面図の描き方解説。「一人暮らしのインテリア」課題平面図（スケルトン）のトレース。</p> <p>第6回 インテリアエレメントの配置、エスキース。</p> <p>第7回 平面図作成、着彩。</p> <p>第8回 展開図の描き方解説。展開図作成、着彩。</p> <p>第9回 一点透視パースの描き方練習問題。</p> <p>第10回 一点透視パースの作成。</p> <p>第11回 各ドローイングのチェックと修正、補足。</p> <p>第12回 作成したドローイングをスキャナーで画像データ化し、パソコンでレイアウトする（Illustratorを使用）。</p> <p>第13回 Illustratorでドローイングに文字とインテリアエレメントの画像を加え、全体のレイアウトを整えて、プレゼンテーションボードに仕上げる。</p> <p>第14回 プレゼンテーションボードのチェックと修正。</p> <p>第15回 プリントアウトし、発表と講評を行なう。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。（評価比率：小課題30%、最終課題作品40%、平常点30%）

履修上の注意 Requirements and policy	ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、製図用シャープペンシル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。 また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	「インテリア・スケッチ Super トーク」(長谷川矩祥著、グラフィック社) その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：街ゆく人のイメージリサーチとショップ選びのマーケティングリサーチを学ぶ。</p> <p>○授業の目的、概要 阪神間や神戸地域は、多くの芸術家（音楽家、写真家、ファッション・デザイナー、グラフィック・デザイナー等）が活躍した土壌である。特にデザイン、造形、ファッションショーの演出など技術の範囲が広く、情報発信地でもあった。ここでは、阪神間の地域が造り出す芸術の事例を取り上げ、フィールド調査や芦屋から情報発信した雑誌『ファッション』を読解し、ファッションの見方やイメージの捉え方などを学び、自己イメージの表現方法やファッションの新たな見方を議論し、学生独自のファッションを形成する狙いも兼ね備えている。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：各自、リサーチするショップを考える。 2. 芦屋から情報発信した雑誌『ファッション』を読解する。①ファッション・デザイナーを中心に。 3. 芦屋から情報発信した雑誌『ファッション』を読解する。②関西と関東のファッション比較を中心に。 4. 芦屋から情報発信した雑誌『ファッション』を読解する。③京都・大阪・三宮のファッション比較を中心に。 5. JR尼崎駅前「COCO E」のフィールド調査。JR尼崎駅前付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 6. JR尼崎駅前「COCO E」のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 7. 阪急西宮ガーデンズのフィールド調査。阪急西宮ガーデンズ付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 8. 阪急西宮ガーデンズのイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 9. 阪急西宮ガーデンズとJR尼崎駅前「COCO E」の比較検討をする。 10. 大阪（梅田）のフィールド調査。大阪駅（梅田）付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 11. 大阪（梅田）のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 12. 三宮のフィールド調査。三宮駅付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 13. 三宮のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 14. 大阪と三宮のイメージリサーチを比較する。 15. JR尼崎駅前「COCO E」と阪急西宮ガーデンズ、大阪と三宮のイメージリサーチを発表する。 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める						
評価方法 Evaluation	○評価方法：レポート70%、発表30%						
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。 ③フィールド調査の交通費は、各自負担。						
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書 Reference(s)	○参考書：杉原淳子著『ファッション・マーケティング』（嵯峨野書院）						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>地域は多面的であるので、それを表現するには訓練がいる。どんな景観が町にあるかを調査し、それを表現する基本的な態度や技術を学ぶ。「デザインサーベイ」である。</p> <p>戸外に出て調査をし、写真を撮ったり記述したり絵やマップにしあげる。</p> <p>これらを経て、都市やまちづくりへの興味を深める。調査中のハプニングにも期待する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 リサーチの準備—なにを調べるのか 2 リサーチの準備—どこで調べるか 3 リサーチの準備—どのように調べるか 4 リサーチ1—踏査・メモ 5 リサーチ1—スケッチ・写真・マップ 6 かんたんなまとめ 7 リサーチ2—踏査・メモ 8 リサーチ2—スケッチ・写真・マップ 9 かんたんなまとめ 10リサーチ3—踏査・メモ 11リサーチ3—スケッチ・写真・マップ 12まとめの作業—ややかんたんに 13まとめの作業—くわしく 14まとめの作業—完成1 15まとめの作業—完成2
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	なん度かの戸外調査を含む演習
評価方法 Evaluation	参加の積極性 提出物100%
履修上の注意 Requirements and policy	リサーチの日は時間割と違う日に振り替えることがある
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	阪神特に神戸地域で、低層戸建、中層そして高層集合住宅地の典型的事例を取り上げて、各種文献資料によりデザイン関連の知識を学習しさらに、実際各々の現地をデザインサーベイしまとめあげる。このことで、戸建住宅や中高層集合住宅に対する具体的デザインイメージ、あるいはコンセプトを掴む。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス・・・演習の目的・意義、方法などの説明</p> <p>第2回 ①低層住宅（例えば舞多間、ワシントン村、京町家）・・・概要説明・発表のポイント</p> <p>第3回 現地調査・・・必ず何人かで行くこと</p> <p>第4回 現地調査結果の発表</p> <p>第5回 ②中高層住宅：例えば、住吉、GH御影、浜甲子園団地、ハット神戸・・・概要説明</p> <p>第6回 現地調査・・・必ず何人かで行くこと</p> <p>第7回 調査結果の発表と討論</p> <p>第8回 ③環境共生（住宅）・・・概要説明・発表のポイント</p> <p>第9回 現地や文献調査・・・必ず何人かで行くこと</p> <p>第10回 調査結果の発表と討論</p> <p>第11回 ④団地再生・・・概要説明：例えば、GH御影、浜甲子園団地</p> <p>第12回 現地調査・・・必ず何人かで行くこと</p> <p>第13回 調査結果の発表と討論</p> <p>第14回 ⑤震災復興・・・概要説明・発表のポイント</p> <p>第15回 まとめ</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、文献調査・現地調査、討論など
評価方法 Evaluation	平常点：30%、レポート：70%。
履修上の注意 Requirements and policy	各住宅地の現地調査、文献調査を行なうが、交通費などは自己負担
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	演習の中で紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：色彩の知識から演習を通じ幅広く理解する</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>色彩には物理的、化学的、生理的、心理的な面などがある。それらの多岐にわたる領域から色彩の根本原理を理解し、応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。「色とは何か」という疑問を持ちながら、色彩の性格を理解し、色の表し方や色彩調和、色彩の知覚的效果、色彩の感情効果、色彩の美的効果を中心に理解する。次に、色彩の基礎的知識を得た上で応用編として、ファッション・ハウジングの配色計画を考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色の本質を説明する。 2. 色の体系：日本色研配色体系（P.C.C.S.）、マンセル色体系、オストワルト色体系を演習しながら学ぶ。 3. 色の見え方や感じ方：色の対比や同化を説明するとともに色の感じ方を演習を通じ学ぶ。 4. 配色①：色相をもとにした配色を演習する。 5. 配色②：明度をもとにした配色を演習する。 6. 配色③：彩度をもとにした配色を演習する。 7. 配色④：トーンをもとにした配色を演習する。 8. 配色⑤：バランス、アクセント、コントラスト、グラデーション、ドミナイトを演習する。 9. 配色⑥：まとまりや変化の配色、イメージにあわせた配色を考えてみよう。 10. 配色⑦：雑誌などを参考にしながら好みのカラー・コーディネートを考えてみよう。 11. インテリアカラーコーディネートの配色を演習する。 12. 肌色の基礎知識を学ぶ。 13. 肌色の見え方：肌色とP.C.C.S. トーンのカラー・コーディネートを演習する。 14. 肌色についてのカラー・ガイド：ピンク系、ナチュラル系、オークル系、ブロンズ系の肌色とのコーディネート説明する。 15. 応用編：トーン・オン・トーン配色、トーン・イン・トーン配色、トータル配色、カマイユ配色、トリコロール配色、ビコロール配色、マルチカラー配色を演習しよう。
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：毎回、演習形式で行う。配色を演習する。
評価方法 Evaluation	○評価方法：課題100%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 指定する課題を必ず提出する。 ③毎回、のり、はさみを持参する。
教科書 Textbook(s)	<p>○教科書</p> <p>財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』（日本色研事業株式会社）</p> <p>財団法人日本色彩研究所監修『インテリアカラーブック』（日本色研事業株式会社）</p> <p>ファッションカラー編集部編『Fashion Color Recipe おしゃれな色の選び方』（日本色研事業株式会社）</p> <p>財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199 a』（日本色研事業株式会社）</p> <p>尚、『新配色カード199 a』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。</p>
参考書 Reference(s)	○参考書：授業内にて紹介する。

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	岸 一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>■建築の企画・計画・設計および提案のプロセスを学び、プレゼンテーションのテクニックを習得する。</p> <p>■店舗併用住宅の計画を課題として、企画書・コンセプト・プランニング・スケッチ・パースなどの手法を学び、プレゼンテーションボードを作成する。</p> <p>■完成した作品を発表し、講評を行う</p>
授業計画 Syllabus	<p>第01回 プレゼンテーションとは (課題の説明・進め方) ※PPT使用</p> <p>第02回 企画書の作成 (コンセプト計画・情報収集)</p> <p>第03回 企画書の作成 (エスキースチェック)</p> <p>第04回 企画書の作成 (エスキースチェック)</p> <p>第05回 企画書の作成 (エスキースチェック)</p> <p>第06回 企画書のまとめ (エスキースチェック)</p> <p>第07回 企画書提出 (プランのまとめ)</p> <p>第08回 基本計画の進め方 (土地利用計画・配置ゾーニング) ※PPT使用</p> <p>第09回 図面作成 (平面・立面・外観イメージスケッチ)</p> <p>第10回 図面作成 (平面・立面・断面・インテリアイメージスケッチ)</p> <p>第11回 図面作成 (平面・立面・設計コンセプト)</p> <p>第12回 図面作成 (最終チェック)</p> <p>第13回 プレゼンテーション (表現技法) ※PPT使用</p> <p>第14回 プレゼンテーション (表現技法)</p> <p>第15回 プレゼンテーション (提出)</p>
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使った講義を交えた実習
評価方法 Evaluation	出席回数と作品の完成度との総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること(減点対象) 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻は2回を1回の欠席とし、1時間以上の遅刻は欠席とする。 出席が9回以下の者は原則として単位は認めない。 欠席した場合は次回までに遅れを取り戻し、実習に支障のないようにすること。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	授業中に資料は配布する
備考 Remarks	<p>■提出内容について</p> <p>1) 企画書 A4サイズにて2~3枚程度(タイトル表紙は除く) 左とじとする</p> <p>2) 提出図面(ケント紙2枚) タイトル/設計コンセプト 配置図 1/100 平面図(1F・2F) 1/100 店舗平面図 1/ 50 立面図 1/100 断面図 1/100 外観パース</p>

備考 Remarks	インテリアパス その他、上記内容を補足する図面または写真
---------------	---------------------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この演習では生産された衣服のプレゼンテーションがどのような方法で行われているのかを理解させ、その基本的な企画力の育成をめざす。ショップなどの空間におけるプレゼンテーションについて解説し、それらのパッケージや広告などを合わせた総合的な演出についての調査から、商品に付加価値をつけるイメージがどのように演出されているのかという手法とその効果の分析を行わせる。それを参考に、各自の独創的なプレゼンテーションを提案させ、企画書、資料を作成させる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションでは全体の授業の流れについて説明する。 2. 商品企画の流れおよびマーチャンダイザーの役割 3. ファッションとテキスタイルマーチャンダイジング 4. 商品企画Ⅰ - ①商品企画方針立案 5. 商品企画Ⅰ - ②ターゲット設定および③次期シーズンの状況認識 6. 商品企画Ⅰ - ④次期シーズンのコンセプト 7. 商品企画Ⅰ - ⑤トップへの企画構想説明 8. 商品企画Ⅱ - ①アイテム企画方針立案 9. 商品企画Ⅱ - ②サブ・シーズン別のアイテム情報整理分類 10. 商品企画Ⅱ - ③サブ・シーズン別コーディネート企画 11. 商品企画Ⅱ - ④アイテム別生地企画 12. 商品企画Ⅱ - ⑤サブ・シーズン別発注予測 13. 商品企画Ⅲ - ⑥プロモーション・ミックス企画の方針および企画立案 14. 商品企画Ⅳ - ⑦販促・宣伝企画立案およびセールス・ミーティング企画 15. 商品企画案プレゼンテーションおよび評価
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	配布プリント、スライド、調査による進む
評価方法 Evaluation	出席 (50%) レポート (20%) と企画書 (30%) の提出による評価
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV（プレゼンテーション演習）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：ファッションの企画を通じてプレゼンテーションを演習する。</p> <p>○授業の目的、概要： 企画するにあたり、アパレル企業やデザイナーズブランド等を取り上げ、関連した資料および情報を多方面から収集し、企画するプロセスを分析し理解する。同時に、イメージの作り方、企画の技法や進め方を習得する。最後に学んだ手法を用い、自分だけのブランドを企画し発表・講評することで企画能力を向上させ、プレゼンテーションするセンスを磨くことを目的としている。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）： 2. 企画の技法① 帰納的方法と演繹的方法を学ぶ 3. " ② KJ法の進め方 4. " ③ ブレーンストーミング法の進め方 5. " ④ チェックリスト法の進め方 6. " ② 特性要因図法とトリー法の事例と特色 7. " ② フリーマップ法と連関図法（戦略マップ法）の事例 8. 技法を用いて演習し、発表 9. 企画原案（アイデア・構想）の考え方 10. グランド・ポニョニングマップの演習 11. 女性のトレンド感性のポニョニング演習 12. ターゲット設定の演習 13. ターゲット設定のプロセスの発表 14. コンセプト設定の演習 15. コンセプト設定のプロセスの発表
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：課題50%、発表50%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。
参考書 Reference(s)	○参考書：杉原淳子著『ファッション・マーケティング』（嵯峨野書院） 日本衣料管理協会刊行委員会編『アパレル企画―基礎と演習―』（財団法人日本衣料管理協会）
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションやハウジングデザイン領域のイメージは、その経路を従来の印刷・出版における静止画像から、ビデオ、PC、インターネット、携帯などで表示される映像に急激に拡大しつつある。こうしたデジタルメディアによる高画質で速報性のあるイメージは企業やブランドの影響力を高める不可欠のツールとなっている。この演習ではこうした訴求力のある画像や映像などを産み出すメディア機器の基本的なスキルや、イメージをより効果的に伝えるための表現技法を習得し、デザイン作品、展示・ショーなどを魅力的にプレゼンできるイメージを実現することを目標とする。
授業計画 Syllabus	
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習・実技
評価方法 Evaluation	出席状況、授業中の積極性、レポート、作品などを総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	使用するメディア、機器は学生によって異なる場合や、協同で使用する場合もあるので、協調性をもって他の学生に迷惑を掛けないよう注意する。作品制作に必要なデータ保存のために各自がメディアを用意する。
教科書 Textbook(s)	特に無し。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	矢代 恵						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>プレゼンテーション技法を学ぶことで、設計し考えた内容を、より解りやすく説得力をもって人に伝える力を習得する。</p> <p>店舗併用住宅のリノベーション計画と全体模型を製作する。 コンセプト・プランニング・デザイン計画といった設計プロセスに基づき、平面図・立面図計画の後S=1/100の模型を製作する。 完成した模型の写真を撮り、タイトル・コンセプト・平面図・立面図・模型写真・イメージ写真などでプレゼンテーションファイルをつくり発表、講評を行う。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>店舗併用住宅のリノベーション計画。 立地条件、家族構成、店舗内容などを条件設定し、コンセプトに基づきデザインし、表現をする。</p> <p>第1回 プレゼンテーション・模型製作説明・コンセプト検討 第2回 コンセプト・平面図エスキース 第3回 平面図・立面図エスキース 第4回 平面図・立面図CAD入力 第5回 平面図・立面図CAD入力 第6回 CAD入力・模型製作 型紙貼付 第7回 模型製作 平面図・外壁切り出し 第8回 模型製作 外壁切り出し 第9回 模型製作 外壁切り出し・窓加工 第10回 模型製作 内壁切り出し 第11回 模型製作 内壁平面取付 第12回 模型製作 組み立て・敷地作成 第13回 模型撮影・プレゼンテーションファイル説明 第14回 レイアウト・プレゼンテーションファイル作成 第15回 作品発表・講評</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	プロジェクターを使った講義を交えた実習						
評価方法 Evaluation	成績は出席回数と作品提出期日(遅れるほど減点)、作品の完成度によって評価する。 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。						
履修上の注意 Requirements and policy	授業開始時に出席をとる 遅刻した場合2回で1回の欠席とする。1時間以上の遅刻は欠席とする。 出席が9回以下の者には、原則として単位を認めない。 欠席の場合、次回までに課題の遅れを取り戻し実習に支障がないようにする。						
教科書 Textbook(s)	授業中に資料配布						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks	提出物 模型+プレゼンテーションファイルA3						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシー論						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「デザインにおけるイメージの重要性」 コンピュータを中心とするメディア・テクノロジーが発展し、メディアの融合・再編の激しい現代社会、視覚偏重が進む現状を知り、メディアにおける視覚イメージの位置付けから、広告をはじめとする視覚イメージがどのように形成され、読み解かれるのかを理解します。 またイメージがデザインプロセスにおいてもつ意味、果たす役割など、その重要性についても理解します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1: オリエンテーション —イメージ・リテラシー科目入門—</p> <p>2: 「イメージ」と「イマジネーション」</p> <p>3: メディア・テクノロジーの発展と電子イメージ</p> <p>4: メディア環境の変化とイマジネーション</p> <p>5: 先端映像とイメージ (1) —シミュレーションとカメラの眼—</p> <p>6: 先端映像とイメージ (2) —デジタル処理とハイブリッド映像—</p> <p>7: 視覚偏重と見た目依存の社会</p> <p>8: イメージの記号学</p> <p>9: イメージの分析・解釈 (1) —広告デザイン—</p> <p>10: イメージの分析・解釈 (2) —ファッション写真—</p> <p>11: イメージの分析・解釈 (3) —MTV映像—</p> <p>12: 空間とイメージ</p> <p>13: 身体とイメージ</p> <p>14: デザインプロセスとイメージ</p> <p>15: まとめとテスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	テスト、レポート、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が必要です。日常的に見過ごしている様々なイメージを注意深く観察する力を養って下さい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。授業中に紹介します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアエレメント論						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	家具や照明、グラフィックなど、インテリアデザインにおけるエッセンシャルなエレメントに着目し、モダンデザインの黎明期から現代までの、主要な空間とデザインの変遷をたどる。産業革命によって生み出されたモダンデザインの源泉をたどり、アール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後、アメリカ、イタリア、スカンジナビアや日本で生み出された優れたデザインのインテリアエレメントとそのデザイナー達について学ぶ。
授業計画 Syllabus	第 1回 ガイダンス（授業の概要、進め方と学習目標）、インテリアエレメントの楽しみ方 第 2回 モダンデザインVSクラシック/西洋古典の空間とインテリアエレメント 第 3回 モダンデザインVS和のデザイン/日本の伝統空間とインテリアエレメント 第 4回 デザインの美学 身近に楽しむクラシックと和のデザイン 第 5回 モダンデザインの黎明—ジャポニズム/万国博覧会とアーツ・アンド・クラフツ 第 6回 アール・ヌーヴォーのデザイン 第 7回 アール・デコのデザイン 第 8回 1920年代—第 1次世界大戦後のデザイン・ムーブメント 第 9回 巨匠達の時代とデザイン 第10回 ミッド・センチュリーのアメリカ・イタリア・日本 第11回 北欧のデザイナー達 第12回 ポスト・モダンの時代 第13回 全体のまとめ、期末レポート中間報告、質疑応答 第14回 現代のデザイナー達—ミラノ・サローネ報告 第15回 期末レポートの発表と提出
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回のミニレポート（出席点と平常点含む）および期末レポートの成績 （評価比率：毎回のミニレポート60%、期末レポート40%）
履修上の注意 Requirements and policy	配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。
教科書 Textbook (s)	「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1
参考書 Reference (s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアスペース論						
担当教員	十亀 啓						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住宅の内部空間は、様々な生活行為を機能的に行い、美しく安全、快適に住まうために、各部が適切な寸法、形、材料、工法によってつくられ、全体として調和のとれた合理的なものとなるよう、設計されなければならない。そのために、木造、鉄骨造、RC造の各構造や、外部条件に応じた設計の考え方を身につけ、モジュール、各部基準寸法、仕上げ、造作、色彩計画、設備計画などについて学ぶ。またインテリアコーディネーター試験に出題された問題に取り組み、解説することで理解を深める。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 概説 2 生活とインテリア 3 寸法とモジュール 4 住宅の構造（木造） 5 住宅の構造（その他の構造） 6 木材と和の空間 7 家具と洋の空間 8 造作と建具 9 床下地と仕上 10 壁下地と仕上 11 天井下地と仕上 12 インテリアの関連設備 13 インテリアの色彩 14 まとめと試験 15 試験の解説と質疑応答
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小テスト、小演習50% 期末試験50% 受講態度、2/3以上の出席日数を加味する
履修上の注意 Requirements and policy	教科書必携のこと 遅刻厳禁
教科書 Textbook(s)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリント使用 ・ 「素材・建材ハンドブック」CONFORT増刊 (株)建築資料研究社
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン実習						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住宅の各空間（玄関、リビング、ダイニング、キッチン、サニタリー、寝室、和室等）の機能性と造形性について考え、機能的な動線計画や収納等の配置、設備計画に基づくプランニングを行い、家具や造作、仕上げ材も含めた詳細なデザインを考える。課題としては、与えられた集合住宅のスケルトンに対し、住戸内部の設計およびインテリアコーディネートを行い、平面図、断面図、展開図、部分詳細図、透視図等で表現する。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） 第1課題「マンション住戸のリノベーション」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第2回 第1課題 参考事例の紹介、解説。レイアウト調整し、平面図作成。</p> <p>第3回 第1課題 CAD/3D基本操作解説、3Dスケルトンモデルに家具シンボル、壁など3Dインテリアエレメントを配置。</p> <p>第4回 第1課題 簡易な3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色（カラーコーディネート）、3Dパースの作成。</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成。</p> <p>第6回 第1課題 インテリアエレメントの仕上げ選択。画像取り込み、キャプションの作成。</p> <p>第7回 第1課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明。 平面図から主要室の3Dスケルトンモデル作成、開口部の表現。</p> <p>第9回 第2課題 インテリアエレメントの選択、3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第10回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第11回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第12回 第2課題 テクスチャ、ライティング等調整</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 発表と講評。手直し・追加事項のチェック⇒図面追加、修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 他クラスと合同の発表講評会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習（CADも使用）
評価方法 Evaluation	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習1」および「ハウジングCAD実習」を履修済の人に限定。 「イメージリテラシー5」の矢代先生、岸先生のクラスの授業内容と関連づけた課題とするので、いずれかとあわせて履修することが望ましい。 課題に関連する見学を指示する場合がある。

教科書 Textbook (s)	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。
参考書 Reference (s)	コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版) その他、授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン実習						
担当教員	米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住宅の各空間（玄関、リビング、ダイニング、キッチン、サニタリー、寝室、和室等）の機能性と造形性について考え、機能的な動線計画や収納等の配置、設備計画に基づくプランニングを行い、家具や造作、仕上げ材も含めた詳細なデザインを考える。課題としては、与えられた集合住宅のスケルトンに対し、住戸内部の設計およびインテリアコーディネートを行い、平面図、断面図、展開図、部分詳細図、透視図等で表現する。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） 第1課題「マンション住戸のリノベーション」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第2回 第1課題 参考事例の紹介、解説。レイアウト調整し、平面図作成。</p> <p>第3回 第1課題 CAD/3D基本操作解説、3Dスケルトンモデルに家具シンボル、壁など3Dインテリアエレメントを配置。</p> <p>第4回 第1課題 簡易な3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色（カラーコーディネート）、3Dパースの作成。</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成。</p> <p>第6回 第1課題 インテリアエレメントの仕上げ選択。画像取り込み、キャプションの作成。</p> <p>第7回 第1課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明。 平面図から主要室の3Dスケルトンモデル作成、開口部の表現。</p> <p>第9回 第2課題 インテリアエレメントの選択、3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第10回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第11回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第12回 第2課題 テクスチャ、ライティング等調整</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 発表と講評。手直し・追加事項のチェック⇒図面追加、修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 他クラスと合同の発表講評会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習（CADも使用）
評価方法 Evaluation	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。

履修上の注意 Requirements and policy	履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習1」および「ハウジングCAD実習」を履修済の人に限る。「イメージリテラシー5」の矢代先生、岸先生のクラスの授業内容と関連づけた課題とするので、いずれかとあわせて履修することが望ましい。課題に関連する見学を指示する場合がある。
教科書 Textbook(s)	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。
参考書 Reference(s)	コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版) その他、授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	家族社会学						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	衣、住の生活に関して、それらのデザインを学習する場合には、家族や世帯との係わり合いが大きく、基礎知識の習得は必須である。本講義では、家族の変容が著しい現代日本の都市社会に着目し、衣と住とに関連させながら家族に関する基本的事項の解説を行う。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 現代家族の役割・昨日 5. 家族の形態とその変化 6. 家族のライフスタイルと役割理論 7. 家族のライフスタイルとジェンダー理論 8. 家族のライフスタイルとライフコース理論 9. 家族のライフスタイルとコーホート理論 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポートと期末試験（授業中の小レポート40% 期末試験 60%）
履修上の注意 Requirements and policy	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また遅刻3回で欠席1回とする。
教科書 Textbook(s)	よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	感性デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：ヒトの感性がどのように作用するか理解する。</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>デザインされたモノには機能性と審美性が備わっているが、それに対するユーザーの反応は必ずしも理性的にとどまらず感性的反応も重要な部分を占める。従って、ヒトの感性がどのように作用するのかを理解することはデザインプロセスにおいても不可欠の要因となる。</p> <p>従来、学術的に捕らえることが難しかった感性を多様な手法で客観的に研究する感性工学の考え方を理解し、ファッションやハウジング領域を中心に各デザイン分野に応用される感性的手法の意義や現状を理解する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）： 2. 感性とは何か。 3. 感性を測ることとは何か。 4. 脳の構造と感覚情報処理 5. 感覚と感性デザイン① 視覚と感性 6. 感覚と感性デザイン② 聴覚と感性 7. 感覚と感性デザイン③ 嗅覚と感性 8. 感覚と感性デザイン④ 味覚と感性 9. 感覚と感性デザイン⑤ 触覚と感性 10. ファッションと感性① 和服と世界ファッション 11. ファッションと感性② 12. 工業デザインと感性① ヨーロッパの近代デザイン 13. 工業デザインと感性② 昭和のデザイン 14. 芸術の中の感性：絵巻物にみる日本の感性 15. 文学の中の感性
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義、演習する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験50%、レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。
教科書 Textbook(s)	○教科書：プリントを配布。
参考書 Reference(s)	○参考書：授業中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ガーデニング論						
担当教員	清水 光次						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>住まいの屋外環境「庭」への関心はますます深まっている。ガーデニングという言葉が定着したように、庭のスタイルが多様化していることや、様々な雑誌などでの取り上げ方を見ても、単に流行を追うのではなく、「庭の本質＝いかに自分流に楽しむか」を追求する住まい手が増えてきたことがわかる。</p> <p>一戸建ての庭はもちろんのこと、マンションのバルコニーにおいても、今後さらに「マイガーデン」としての楽しみを見出そうとする層が増えてくるだろう。現に、ファミリータイプのマンションのバルコニー規模は、ここ数年格段に大きくなり、庭としての機能「シンクや照明やコンセントなど」が実装されてきたことからその傾向が伺える。</p> <p>機能面だけではなく、質の面で住まいを考えるとき、建物としての「家」と、「屋外環境」そして「インテリア」の3つは、相互に関係する重要な要素である。単なる「外構」ではなく、楽しむための「庭」あるいは「ガーデン」を語れることが、ハウジングのデザインの幅を大きく広げることにつながると考えている。</p> <p>この講義では、「屋外環境をいかに形にしていけるか」を、機能面だけでなく、デザインやテクニカルな要素だけでなく、楽しみとは何かということにまで踏み込んで考えていきたい。また、住宅産業や造園業の現場での実践的基礎的スキルと知識を習得することも目指す。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 スタイル別に庭のデザインを整理する 2 庭のテイスト感を整理する 3 庭の楽しみや居心地のよさとは何かを考える 4 住まいの庭の実例研究 5 外構や庭の構成要素を学ぶ 6 庭の素材とテイストの関係性を理解する 7 街並みのデザインを見る目を養う 8 植栽デザインの基礎 9 ガーデニングにしたい植物ベスト（樹木編） 10 ガーデニングにしたい植物ベスト（灌木編） 11 ガーデニングにしたい植物ベスト（宿根草編） 12 庭のデザイン手法（アプローチ編） 13 庭のデザイン手法（主庭編） 14 バルコニーガーデン 15 庭造りの現場 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義が主である。小演習（庭のデザイン）を随時行う。						
評価方法 Evaluation	中間演習20%・期末演習60%・平常点及び小演習20%。						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>a) 履修対象者 庭造りやガーデニングを楽しみたいという学生の受講を期待する。</p> <p>b) 授業外における学習方法 意識して街を歩く。</p>						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)	<p>「自分流に楽しむ「気まま」な庭づくり」 著者 清水光次 出版社 メタ・ブレーン ISBN 4-944098-36-7</p>						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	景観論						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	世界と日本には多様な景観が存在することを画像をもって理解する。 景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていること、それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学ぶ。 世界遺産についてもくわしく知る。 とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行う。
授業計画 Syllabus	1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観問題 13大阪の景観問題 14神戸の景観問題 15景観問題のまとめ+テスト2
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	映像をたくさん使う講義
評価方法 Evaluation	参加の積極性 授業中のテスト2回で100パーセント
履修上の注意 Requirements and policy	まち歩きや旅行が好きなこと
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する 新書などでつよく勧めるものがある
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築一般構造						
担当教員	中村 博明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	建築の構造について概論的な知識を得る。 実験によって構造的なセンスを養う。 構造の重要性、面白さを認識し、この先の学習意欲を育む。
授業計画 Syllabus	第1回：授業の説明 構造を考える意味（導入）…薄い紙で強い柱を作るコンクール 第2回：構造力学の基礎の基礎 第3回：鉄筋コンクリート造（1）構造原理 第4回：鉄筋コンクリート造（2）構造形式 第5回：鉄筋コンクリート造（3）鉄筋とコンクリート 第6回：鉄筋コンクリート造（4）配筋のしくみ 第7回：鉄筋コンクリート造（5）梁と柱の配筋 第8回：鉄骨造（1）構造形式、鋼材 第9回：鉄骨造（2）鉄骨造の実際 第10回：木造（1）構造形式 第11回：木造（2）木材 第12回：木造（3）基礎 第13回：木造（4）軸組 第14回：木造（5）小屋組、床組 第15回：全体のまとめ 及び 期末試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点：30%、小テスト：20%、期末試験：50% 欠席は減点対象とする。
履修上の注意 Requirements and policy	学習したことをただ単に覚えようとするのではなく、「なぜ?」「どうして?」という新鮮な好奇心を持って授業に積極的に参加して下さい。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築関連法規						
担当教員	鈴木 三郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>住宅は人間の生活に最も密接したものであり、生活の基盤である。住宅に要求される水準は、年々、高度で複雑多岐なものになってきている。そのため、住宅の企画・設計・建築・販売に関わるものは建築基準法を中心とした様々な建築関連法規に関する知識を十分に備える必要がある。</p> <p>この講義は、建築基準法の「仕組み・制度や基本的考え方」を理解することを第一にし、併せて今日的課題に対応するための「環境・福祉・景観・都市・防災等に関する法律」の概要を学び、ハウジング関連技術者としてのハウジングの形成に資することを目的とするものである。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「建築関連法規」とは 神戸における建築やまちづくりの事例を見ながら、関連する法規を概観する 2. 都市計画法と建築基準法 都市における建築に関し都市計画法と建築基準法の果たす役割および分担を理解する 3. 建築基準法①「総則」 建築基準法の構成を把握し仕組みを理解する 4. 建築基準法②「単体規定その1」 建築物の安全確保に関係する「構造耐力・耐火・避難」などの規定を学ぶ。 5. 建築基準法③「単体規定その2」 第4講に引き続き「単体規定」の主要事項を学ぶ 6. 建築基準法④「集団規定その1」 都市における建築に適用される「用途・建蔽率・容積率・斜線制限」などの規制内容を理解する 7. 建築基準法⑤「集団規定その2」 第6講に引き続き「集団規定」の主要事項を学ぶ 8. 法律と条例 地方自治体が独自に制定する建築関連条例を調べ、法律と条例の関連を理解する 9. 景観とデザイン 神戸市における都市景観形成の取り組みを踏まえ、景観法および都市景観条例の果たす役割を理解する 10. マンション建設と住環境 高層マンションの建設を巡る住民紛争の実態を調べ、住環境保全のための方策を考える 11. 超高齢社会とユニバーサルデザイン 「新バリアフリー法」などユニバーサル社会に相応しい建築や住宅をつくるための法律や施策を学び、最近の事例を調べる 12. 「省エネルギー法」と「CASBEE」 改正省エネ法や建設リサイクル法など、最近の建築・環境を巡る動きを知る。 13. 震災による住宅災害と耐震改修 阪神淡路大震災での住宅被害の実態を知り、耐震改修の必要性・重要性を認識する 14. 神戸市のハウジング 市営住宅など神戸市におけるハウジングの現況を踏まえハウジングの諸課題を探る 15. 講義のまとめ及び「期末テスト」
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点（30%）および期末テスト（70%） 全講義回数の1/3を超える回数の欠席がある場合、原則として期末テストの受験を認めない。
履修上の注意 Requirements and policy	履修の対象者 法律や制度を中心とした専門用語を使った専門的な内容となるため、「建築」および「まちづくり」に強い関心や興味を持つ人の受講が望ましい。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用しない。毎回、講義開始時に出席者に対し教材プリントを配布する。

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築計画学						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「2DK」といういい方には深い歴史がある。 建築の平面計画、つまり間取りの話である。前半は住宅を中心として日本における住宅平面の発展を学ぶ。 後半では商業施設・図書館・集会所・小学校など各種建築の平面計画のあり方を学ぶ。 若干の演習を交えての授業とする。
授業計画 Syllabus	1 日本住宅の系譜 2 農家・町家・長屋 3 現代住宅の分類 4 小住宅における秩序 5 2DKや3LDK 6 住宅平面のいろいろ 7 建築平面演習1 8 集合住宅の展開 9 住宅の系譜まとめ 10 建築平面のいろいろ (図書館) 11 建築平面のいろいろ (商業施設) 12 建築平面のいろいろ (集会所) 13 建築平面のいろいろ (小学校) 14 建築平面演習2 15 建築平面演習3
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義は映像を多用、部分的に授業中に作業をする
評価方法 Evaluation	参加の積極性 授業中の提出物100%
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築構造学						
担当教員	富岡 裕史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	建築物を安全に設計するために各種構造理論の基礎としての構造力学を理解することが不可欠である。建物に作用する力を把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考え、実際の木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造を理解することを目標とする。また建築士試験の勉強を始めるに当り、必要となる構造力学の知識・考え方を取得することを目指す。
授業計画 Syllabus	1) 9/24(土) 構造力学に必要な基礎知識…力の単位、直角三角形の性質（ピタゴラスの定理、相似）、建築構造のモデル化 2) 10/1(土) 力とモーメント 3) 10/15(土) 力の合成と分解 4) 10/22(土) 力の合成と分解についての演習 5) 10/29(土) 力の釣合いと力の釣合い式 6) 11/12(土) 力の釣合い式を用いた演習 7) 11/19(土) 中間試験 8) 11/26(土) 静定構造物…反力の算定方法、単純梁・片持ち梁の反力算定 9) 12/3(土) 静定構造物…静定ラーメンの反力算定 10) 12/10(土) 静定構造物の反力算定についての演習 11) 12/17(土) 木構造 12) 1/14(土) 鉄筋コンクリート構造 13) 1/21(土) 鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造 14) 1/28(土) 鉄骨構造 15) 2/4(土) まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験50%、課題50%
履修上の注意 Requirements and policy	教科書を中心として授業を進める。演習を行うため、定規（三角定規）・コンパス等の筆記具を用意すること。また演習、課題、試験において電卓を使用してもよい。 1) 履修の対象者 建築物の設計に関心を持つ人で、将来二級建築士資格の取得を目指す人を対象とします。 2) 授業外における学習 授業後学習：学んだことの復習のため、課題を出題します。課題に対する回答を作成し、次回の講義のときに、提出して下さい。 3) 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	「初学者の建築講座 建築構造力学（初版）」元結正次郎、大塚貴弘 著 市ヶ谷出版社 ISBN 978-4-87071-013-9
参考書 Reference(s)	「二級建築士試験合格セミナー 建築構造」全日本建築士会 編 オーム社 ISBN 978-4-2742-0181-0
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築材料学						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>住宅の計画・設計に際してのみならず、考え・論じるときに抽象的なモノではなく、実際の実体・構造は何から作られているのか知っていると理解しやすい。住宅を構成する材料(=建築材料、building materials)に関する基礎知識の習得が目的である。</p> <p>建築物は、主要には骨組みである構造体、内外装・屋根の仕上げ、内部の間仕切りなどの造作や建具、電気・機械あるいは衛生といった設備関連、から成り立ち、各々が数多くの多様な部材・材料から作られている。ハウジングを学ぶ学生として、どのような建築材料があり、どのような特性を持ち、歴史的にどのように変遷してきたかを知ることは重要なことである。また、それらへの正しい理解をもって住居の設計や施工あるいは保全・改善に対処し、あるいは、住居に関してより深い理解がえられる。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、建築材料の概要(1)(歴史)</p> <p>第2回 建築材料の概要(2)(分類、性能)</p> <p>第3回 木材(1)(日本建築と木材、種類と特徴)</p> <p>第4回 木材(2)(強度、構造、規格・等級)、小テスト</p> <p>第5回 木材(3)・・・現場見学(学外)</p> <p>第6回 コンクリート(1)(コンクリートとは、セメント、骨材、水)</p> <p>第7回 コンクリート(2)(コンクリートの性質、調合、種類・強度)</p> <p>第8回 コンクリート(1)・・・破壊試験(学内)</p> <p>第9回 鋼材(1)(鉄の歴史、製作、性質・腐食、規格)小テスト</p> <p>第10回 鋼材(2)・・・現場見学(学外)</p> <p>第11回 焼成品(タイル、れんが、瓦、衛生陶器)</p> <p>第12回 ガラス(ガラスの歴史、特徴、種類)</p> <p>第13回 石(石の特徴、分類)</p> <p>第14回 左官材料・ボード類(左官とは、左官の種類、ボード類、プラスチック、塗料)</p> <p>第15回 部位別・性能別材料(床・壁・天井仕上げ、防火・耐火、防音・吸音)、小テスト</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は教科書を使った講義 ・毎回、質問用紙により、質問受け、次の週に回答。 ・コンクリートについては、学内で装置(1号館1階の圧縮試験機)を使って圧縮破壊実験を行なう ・スライド・ビデオ映写。 						
評価方法 Evaluation	平常点30%、小テスト・レポート70%						
履修上の注意 Requirements and policy	可能な限り、建築工事現場等の見学も行なう。ただし、交通費等は自己負担						
教科書 Textbook(s)	松本進著「図説やさしい建築材料」(学芸出版社) isbn978-4-7615-2417-3						
参考書 Reference(s)	随時紹介する						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築施工学						
担当教員	浅田 豊						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	建築生産のしくみと社会や顧客との関わり、建築の準備から完成にいたる一連の基本的な施工技術とトータルな施工管理マネジメントを取得するため、建築施工と設計の関わり、契約のしくみ、建築現場業務について学び、各施工段階での施工技術を取得する。						
授業計画 Syllabus	1) 4/9(土) 建築物が出来上がるまでの各工程の概要 2) 4/16(土) 建築生産のしくみ、施工者の選定と工事請負契約 3) 4/23(土) 工事の積算、工事監理 4) 5/14(土) 施工計画、品質管理、原価管理、工程管理 5) 5/21(土) 安全衛生管理、仮設・準備工事 6) 5/28(土) 土工事、地業・基礎工事 7) 6/4(土) 基礎工事、中間試験 8) 6/11(土) 鉄筋工事…材料と配筋 9) 6/18(土) 鉄筋工事…継手、型枠工事…型枠の構成 10) 6/25(土) 型枠工事…組立て・解体 11) 7/2(土) コンクリート工事…コンクリート材料と用語 12) 7/9(土) コンクリート工事…コンクリートの打設方法 13) 7/16(土) 鉄骨工事…加工・組立て 14) 7/23(土) 鉄骨工事…現場施工 15) 7/30(土) 屋根・防水工事、期末試験						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験50%、課題50%						
履修上の注意 Requirements and policy	1) 履修の対象者 建築の設計及び施工の方法に関心を持つ人で、将来二級建築士資格の取得を目指す人を対象とします。 2) 授業外における学習 授業後学習：学んだことの復習のため、課題を出題します。課題に対する回答を作成し、次回の講義の時、提出下さい。 3) 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4) 必要に応じ、学外見学を実施します。現地（大阪府または神戸市近辺を予定）までの交通費等は各自が負担下さい。						
教科書 Textbook(s)	「初学者の建築講座 建築施工（改訂版）」中澤明夫、角田誠 著 市ヶ谷出版社 ISBN 978-4-87071-121-1						
参考書 Reference(s)	「二級建築士試験 対策講座 建築施工」（社）全日本建築士会 編 オーム社 ISBN 4-274-16611-2						
備考 Remarks	学外見学時には、運動靴等、行動しやすい服装で参加下さい。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン学						
担当教員	石崎 昂之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>建築は、人が住み・遊び・働く等の必要機能を全うするために、安全・安心・快適かつ美しくなければならない。この目的を達成するため、建築がどのようにあるべきか構想することがデザインである。そのためには、まずは優れた建築に触れ、設計者の意図を良く知り、利用者の要求を追求し、これらの得たものを自らの建築イメージ形成に生かしていくことが重要である。</p> <p>本講義では具体的な事例を紹介しながら、このプロセスを経ることにより、建築デザインの何たるか、或いはその意義を学んでいく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回： 建築デザインとは・「近代の建築」・安藤忠雄とヴォーリス 第2回： 「現代の建築」・神戸の建築 第3回： 「戦後日本の建築」・関西の建築 第4回： 「建築表記の射程」・関西のハウジング 第5回： <建築見学①>～本学院の建築を見学 第6回： 「建築の原点」・欧州の建築① 第7回： 「建築の要素」・欧州の建築② 第8回： 「建築のかたち」・米国の建築① 第9回： 「部分と全体」・米国の建築② 第10回： <建築見学②>～神戸の建築を見学（安藤忠雄の作品を予定） 第11回： 「光について」・豪州の建築 第12回： 「空間について」・中国韓国の建築 第13回： 「近・現代の都市」・日本の建築① 第14回： 「力の流れと表現」・日本の建築② 第15回： 「持続可能性と建築デザイン」・これからの建築の課題</p> <p>（註）「」は、教科書の内容、他は事例紹介。</p>
参照URL Reference URL(s)	特になし
授業方法 Class type	教科書を使った授業を約1/2とし、後は、パソコン等によりデザイン的に優れた建築事例を紹介する。授業の他2回は、“建築見学”を実施し、建物の見方を指導する。
評価方法 Evaluation	講義レポート60%、見学レポート40%
履修上の注意 Requirements and policy	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築デザインに興味をもてるような授業を目指す。 2. 二級建築士の建築計画に出題ある範囲の内容について修得させる。
教科書 Textbook(s)	「テキスト建築意匠」平尾和洋・末包伸吾編著、学芸出版社
参考書 Reference(s)	特になし
備考 Remarks	特になし

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン実習						
担当教員	植田 道則						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>題材として、商業施設を取り上げます。</p> <p>①日常生活の中から、好きなショップを数例レポートし、その店が街を魅力的にしている部分について考えます。商業デザインの基礎を学びます。</p> <p>②①で学んだことを展開し、課題敷地の中で店舗付き住宅のデザインを行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 【課題発表とオリエンテーション】</p> <p>◆課題発表 具体的な敷地を設定し、店舗付き住宅（約100~150㎡）の設計を行う。 店舗は雑貨屋、服屋、カフェ、レストランを想定しています。</p> <p>◆ライフスタイルを豊かにする商業建築紹介 海外の先端商業施設事例を音と映像により紹介</p> <p>第2回【学外研修（フィールドワーク）：「神戸元町・旧居留地のまちづくり」】 神戸らしさとライフスタイルを創り出す商業建築を見てその魅力について考えます。</p> <p>第3回【コンセプトとは】【コンセプトワーク】【イメージとの醸成】</p> <p>第4回【コンセプトレビュー】各自のコンセプトを全員で考えます。</p> <p>第5回【プログラムとアクティビティ】必要な部屋や、部屋と部屋のつながりを考えます。</p> <p>第6回【平面エスキース1】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第7回【平面エスキース2】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第8回【平面エスキース3】平面プランの肉付けを考えます。</p> <p>第9回【断面計画1】断面計画をステップを踏みながら書いていきます。</p> <p>第10回【断面計画2】断面計画の骨格を考えます。</p> <p>第11回【断面計画3】平面・断面計画から空間や立体の構成を考えます。</p> <p>第12回【模型作製1】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第13回【模型作製2】模型に対して、色や光の演出を行います。</p> <p>第14回【模型作製3】模型を仕上げ、写真撮影を行います。 最終報告会のためのプレゼ準備を行います。</p> <p>第15回【デザインレビュー+プレゼンテーション】 各人のデザインについてディスカッションし理解を深めあう。 ※折を見て、私自身のスケッチや設計資料等を学生の方に紹介します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>第1回：データスライド等を用いた講義</p> <p>第2回：フィールドワーク</p> <p>第3回：グループ学習他</p> <p>第4-14回：実技演習、プレゼ資料作成（パワーポイント資料作成）</p> <p>第15回：全体デザインレビュー+プレゼ指導</p>
評価方法 Evaluation	<p>成果物評価90%、最終発表10%</p> <p>欠席の場合は上記より減点し、総合評価を行う。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>授業への積極的参加と、授業（学外研修含む）を通じて見聞き感じたことを、個性豊かに表現することを心がけてください。交通費等は自己負担。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	イメージを伝えるのは図面だけではありません。言葉、模型、スケッチ、イメージ写真等、自分にあった表現方法をこの機会に見つけてください。
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン実習						
担当教員	中村 博明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	具体的な建築物の調査・研究を通して、その建築に対する設計者、建築主、利用者等の想いを理解する。それを踏まえて、建築をデザインするにあたって何を重視すべきかについての自分なりの考えをしっかりと持つ。その考えを建築デザインにどのように反映させていくか、設計演習課題を通して習得する。
授業計画 Syllabus	第1回：授業の説明、課題の説明 第2回：エリアレポートの作成、発表、講評 第3回：コンセプトレポート作成、サイトプランエスキス 第4回：コンセプトレポート発表、サイトプランエスキス練り上げ 第5回：住棟エスキス 第6回：住棟エスキス練り上げ、住戸エスキス 第7回：住戸エスキス練り上げ 第8回：図面作成（1）・平面図 第9回：図面作成（2）・断面図 第10回：図面作成（3）・立面図 第11回：スケッチパース、図面仕上げ 第12回：模型作製（1）・部品の図面作成 第13回：模型作製（2）・部品作製 第14回：模型作製（3）・組み立て 第15回：合評会
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常点：30%、成果品の評価（過程を含む）：70% 欠席は減点対象とする。
履修上の注意 Requirements and policy	腰を据えてじっくり物を見る。意識して物に感動する。 この姿勢で授業に参加して下さい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	現代デザイン論						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「デザイン都市 神戸」 20世紀の市場経済、消費社会を通じて発展し、現代の社会・生活に広く浸透したデザインの世界では、個々の営利企業を中心とした商品としてのモノづくりという産業に即したデザインの姿から、より公共的、社会的規範を志向し、大きく変貌した在り方が模索され始めています。そうした一例として、この授業ではユネスコの「デザイン都市」に指定された神戸市の様々な取り組みを中心に現代的、未来的なデザインの方向性について考えます。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション 2: モダンデザインの誕生と20世紀 3: ポストモダンデザインと消費社会 4: サステナブル（持続可能な）デザインの考え方 5: デザインの倫理性 6: ユネスコと創造都市ネットワーク 7: ユネスコとデザイン都市 8: ファッション都市からアーバンリゾート都市神戸へ 9: デザイン都市神戸のねらい 10: デザイン都市神戸の取り組み - 1 - 11: デザイン都市神戸の取り組み - 2 - 12: デザイン都市神戸の取り組み - 3 - 13: デザイン都市神戸の取り組み - 4 - 14: デザイン都市神戸の未来 15: まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席状況、授業への積極性、レポートなどを総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	可能な限り演習形式に近い形で進めたいので、与えられたテーマに基づき自発的に調査し発表することを求めます。学外への見学を実施する場合があります。

教科書 Textbook (s)	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	構造力学						
担当教員	浅田 豊						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	建築物を安全に設計するために各種構造理論の基礎としての構造力学を理解することが不可欠である。建物に作用する力を把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考えながら、力の流れと変形を理解することを目標とする。また建築士試験の勉強を始めるに当り、必要となる構造力学の知識・考え方を取得することを目指す。						
授業計画 Syllabus	1) 9/24(土) 構造力学に必要な基礎知識…力の単位、直角三角形の性質(ピタゴラスの定理、相似)、建築構造のモデル化 2) 10/1(土) 力とモーメント 3) 10/15(土) 力の合成と分解 4) 10/22(土) 力の合成と分解についての演習 5) 10/29(土) 力の釣合いと力の釣合い式 6) 11/12(土) 力の釣合い式を用いた演習 7) 11/19(土) 中間試験 8) 11/26(土) 静定構造物…反力の算定方法、単純梁・片持ち梁の反力算定 9) 12/3(土) 静定構造物…静定ラーメンの反力算定 10) 12/10(土) 静定構造物の反力算定についての演習 11) 12/17(土) 断面力の算定…片持ち梁 12) 1/14(土) 断面力の算定…単純梁 13) 1/21(土) 断面力の算定…静定ラーメン 14) 1/28(土) 断面力の算定についての演習 15) 2/4(土) まとめと試験						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験50%、課題50%						
履修上の注意 Requirements and policy	教科書を中心として授業を進める。演習を行うため、定規(三角定規)・コンパス等の筆記具を用意すること。また演習、課題、試験において電卓を使用してもよい。 1) 履修の対象者 建築物の設計に関心を持つ人で、将来二級建築士資格の取得を目指す人を対象とします。 2) 授業外における学習 授業後学習: 学んだことの復習のため、課題を出題します。課題に対する回答を作成し、次回の講義のときに、提出して下さい。 3) 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書 Textbook(s)	「初学者の建築講座 建築構造力学(初版)」元結正次郎、大塚貴弘 著 市ヶ谷出版社 ISBN 978-4-87071-013-9						
参考書 Reference(s)	「イラスト図解 よくわかる構造力学(初版)」市之瀬敏勝 著 ナツメ社 ISBN 978-4-8163-4217-2						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	室内環境論						
担当教員	岡村 圭子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>建物は、構造的に安全であること、美しいことに加え、その中で人が快適に暮らせることが必要である。室内環境は光・熱・空気・音といった物理的要素から成り立っており、私たちは日々これらから影響を受け生活している。これらの環境要素が室内においてどのような現象として現れ、それが人の健康にどのように影響しているか、これらをどうコントロールすればより快適な環境が得られるか、また、環境調整の技術をどのように設計に組み込んでいくかを考えることは重要である。</p> <p>この授業では、学生が採光や照明、空気や熱・湿気の振る舞い、防音遮音技術について基本的事項を学び、状況に応じた改善策、環境設計力を身につけることを目標とする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 室内環境の要素とその単位 2. 音の基礎知識 3. 建物の音響性能 4. 空気の質と流れ 5. 通風と換気 6. 熱の伝わり方 7. 体感温度 8. 外界気象 9. 日照環境 10. 建物の熱性能 11. 熱還流率の計算 12. 湿気と結露 13. 人の視覚と光・色 14. 照明の方法 15. まとめとレポート講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	課題50%、レポート50%で評価。
履修上の注意 Requirements and policy	<ol style="list-style-type: none"> (1) 毎回、テキストを持参すること (2) ほぼ毎回、授業内容に関する課題またはレポートを課す
教科書 Textbook(s)	『生活環境学』岩田・上野・高橋・二宮・光田・吉澤 著、井上書院 ISBN 978-4-7530-1751-5
参考書 Reference(s)	授業中に提示
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住環境論						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間にとってどのような居住地が望ましいのかを考える。ここでは一連の建築学・都市計画学のじゆぎょうであまりふれられなかった二つの観点をもうける。第一は居住の権利論、ユニバーサルデザイン論など、第二は地球尾環境問題の観点からの居住地のあり方である。演習を含めて授業とする。授業のなかで社会現象の対する一般教養、日本語・英語の運用、映画鑑賞の能力の向上もめざす。
授業計画 Syllabus	1家具から地球までのデザイン 2ユニバーサルデザインとは 3新しい住生活のあり方 4高齢者・幼児・障害者のためのデザイン・バリアフリー法のしくみ 5演習1 6演習2 7地球規模の環境問題・サステイナブルな都市の原理 8発展する居住の権利 9気候変動をはじめ地球環境問題 10映画に見る住環境1 11映画に見る住環境2 12映画に見る住環境3 13演習3 14映画に見る住環境4 15演習4
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	基本は講義であるが、演習を含む
評価方法 Evaluation	授業中に作成する演習により、100%の評価を行う 授業への参加の積極性を加味する場合もある
履修上の注意 Requirements and policy	ユニバールデザインや都市のサステイナビリティに興味をもっていること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住居史						
担当教員	笠原 一人						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>人類の誕生とともに、住まいは存在する。世界中各地で、その地域で手軽に入手でき、容易に建築できる素材・部材を選んで、住まいは作られてきた。しかし近代になると、科学技術が飛躍的に発展し、新たな部材・部品、建設技術が発展し、施工の管理も行き届き、世界中で同じような住居が供給されつつある。そんな中で、これまでの住まいの歴史を振り返り、それらを通じて今後のありかたを考えることは重要である。本講義では、西欧の住居史にも触れるが主要には日本の住居の様式史を中心に講義する。住宅がどのような社会的背景の中で、どのように造られ、変容してきたかを理解することを目的とする。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 原始時代の住宅 竪穴住居と高床住居 3. 古代・中世の住宅 寝殿造とその変容 4. 近世の住宅 1 書院造と数寄屋 5. 近世の住宅 2 町屋と民家 6. 近代の住宅 1 洋風住宅 7. 近代の住宅 2 住宅改良運動 8. 近代の住宅 3 都市計画と住宅 9. 近代の住宅 4 モダニズムの住宅 10. 近代の住宅 5 戦時下と戦後復興 11. 近代の住宅 6 戦後モダニズムの住宅1 1950年代 12. 近代の住宅 7 戦後モダニズムの住宅2 1960年代 13. 現代の住宅 1 ポストモダンの住宅 14. 現代の住宅 2 多様化する住宅 15. まとめ 期末テスト 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	期末テスト100%						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(a)履修条件 積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。私語は厳禁。</p> <p>(b)授業外における学習方法 普段から雑誌や書籍などで、優れた住宅作品に親しむようにしてほしい。</p> <p>(c)その他 なし</p>						
教科書 Textbook(s)	なし						
参考書 Reference(s)	<p>【新版】図説・近代日本住宅史 内田青蔵・大川三雄・藤谷陽悦 編著 鹿島出版会 ISBN: 978-4-306-04493-7</p>						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住宅再生論						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本古来の木造家屋である町家や農家・商家などの多くは、忘れられ消滅しつつある。しかし、近年環境共生あるいは住文化や伝統の継承という面から反省が生じ、出来るだけ長く利活用することが望ましいという傾向にある。各地で町家や農家などの再生も展開しつつある。</p> <p>一方また、高度経済成長期には住宅を大量に生産・消費・廃棄してきた。この大量に供給されたマンションや公共賃貸住宅団地も、建替えが進んでいる。このような背景下で、ストック住宅を如何にリニューアルし再生すべきか、課題は山積している。これらの問題を考えながら現地見学し、実情を掴みながら、その構造を理解し今後のあり方を考えていく。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回「住宅再生」を学ぶ目的 第2回町家の再生の実態・・・スライド 第3回町家の再生の事例、再生現場をみる 第4回農家再生の実態と事例・・・DVD 第5回：公共賃貸住宅の再生の現状 第6回：同潤会アパートの再生・・・DVD 第7回：浜甲子園団地見学・・・+レポート提出 第8回：リノベーション実態・・・UR賃貸住宅の事例：向ヶ丘団地、ひばりが丘団地・・・DVD 第9回：居住者の参加による再生・・・多摩平の森、武蔵野緑町団地・・・スライド+パンフ 第10回：賃貸住宅の再生について討論する 第11回：マンションの再生・・・総論 第12回：建替えの実態と方法・・・DVD 第13回：「老朽マンション」の建替え実態・「新狭山ハイツ」・・・スライド 第14回：マンション再生について討論する 第15回：住宅再生を考える・・・試験+レポート</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	・講義、見学、発表、討論						
評価方法 Evaluation	平常点30%、試験・レポート70%、						
履修上の注意 Requirements and policy	「住宅再生」に関して学外見学会も実施予定。その場合、交通費などは学生の個人負担						
教科書 Textbook(s)	プリント						
参考書 Reference(s)	団地再生—公団住宅に住み続ける—(クリエイツかもがわ) 増永理彦 isbn:978-4-86342-009-0						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住文化論						
担当教員	加茂 みどり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：住居・居住に関する文化・ニーズ、及びその実現に向けた計画論的・技術論的発展の経緯を理解し、さらなる発展の方向性を考える能力を養成する。</p> <p>概要：住居史をみると、家族などの生活者が住居のなかで安全・安心そして快適にいかに住みこなすか、時代の様々な制約のなかで格闘してきたことが良く判る。本論では、そのなかで住居内におけるより快適に住むための試みや住居設備に着目し、まずは、日本におけるその歴史をたどり生活者と住居の快適性追求を確認する。その上で、今日急速に進みつつある住宅・住宅設備等の進展あるいは更新について、現状を生活との関連で具体的に分析し、課題を整理し今後の方向を考えていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：講義概要</p> <p>第2回：住宅の機能</p> <p>第3回：住宅計画の変遷</p> <p>第4回：設備計画の変遷</p> <p>第5回：ライフスタイルと住様式</p> <p>第6回：家族の変容と住宅・住宅設備</p> <p>第7回：高齢化と住宅・住宅設備</p> <p>第8回：まち・コミュニティと住宅・住宅設備</p> <p>第9回：可変性と住宅・住宅設備</p> <p>第10回：環境保全と住宅・住宅設備</p> <p>第11回：環境共生住宅の事例</p> <p>第12回：公共性と住宅・住宅設備</p> <p>第13回：地域性と住宅</p> <p>第14回：今後の課題</p> <p>第15回：まとめ 期末レポート</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席点50%、期末レポート50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>授業の一環として学外見学を実施</p> <p>見学先：大阪ガス実験集合住宅NEXT21 (大阪市天王寺区清水谷町6-16、 阪急六甲駅より約1時間、阪急電鉄と大阪市営地下鉄を利用した場合540円)</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活エコロジー論						
担当教員	永村 悦子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。本講義では、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で、また生活とかわる産業で何が行われているか、何ができるかを考える。</p> <p>具体的には、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について正しく理解し、快適性を犠牲にすることなく、環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術について学ぶ。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジー的観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：環境共生・エコロジー</p> <p>第3回：地球環境問題(1)</p> <p>第4回：地球環境問題(2)</p> <p>第5回：生活と環境負荷(1)エネルギー消費</p> <p>第6回：生活と環境負荷(2)廃棄物</p> <p>第7回：快適な衣環境</p> <p>第8回：快適な住環境</p> <p>第9回：環境負荷低減(1)省エネルギー</p> <p>第10回：環境負荷低減(2)衣服の材料とリサイクル</p> <p>第11回：環境負荷低減(3)住まいの材料とリサイクル</p> <p>第12回：環境負荷低減(4)ライフスタイル</p> <p>第13回：エコハウスの事例</p> <p>第14回：エコプロダクツの事例</p> <p>第15回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小テスト40%、授業内レポート30%、期末テスト30%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>評価では授業への取り組みを重視します。</p> <p>やむをえない理由がない限り欠席しない、私語をしないなどの基本姿勢を自覚すること。</p>
教科書 Textbook(s)	プリント配布3
参考書 Reference(s)	授業内に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活福祉学						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	FHDは人間科学部に所属し、生活をベースにしたファッションとハウジングに関してデザインを通じて人々の福祉に貢献することを学科の教育理念にしている。このことから、生活からみた福祉は大事な意味を持ち、FHD所属の学生は基本的な知識は身につける必要がある。本授業では、生活福祉のなかでも、今後ますます重要になると考えられる高齢者の居住福祉に範囲を限定して、その基礎的な概要を理解することが狙いである。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス、生活福祉とは、高齢者居住をなぜ学ぶか 第2回 高齢社会の現実 第3回 高齢者の理解Ⅰ・・・高齢者とは 第4回 高齢者の理解Ⅱ・・・加齢に伴う生活変化 第5回 高齢者のQOL 第6回 高齢者福祉のあゆみと理念+小テスト 第7回 高齢者の介護問題と介護保険制度 第8回 高齢者居住関係ビデオ鑑賞と討論 第9回 高齢者居宅サービスの現状と課題 第10回 高齢者福祉サービス・・・施設サービス 第11回 ゲストスピーチ 第12回 居住福祉とは 第13回 学生のレポート発表・・・高齢者居住についてこう考える 第14回 施設見学 第15回 ビデオ+小テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書による講義、ビデオ、高齢者の福祉施設関係者によるゲストスピーチ
評価方法 Evaluation	平常点：30%、テスト・レポート：70%
履修上の注意 Requirements and policy	高齢者福祉関連施設の見学を行なうことがあるが、交通費などは自己負担
教科書 Textbook(s)	岡崎・野口・水谷編、「高齢者福祉論」、(株)みらい、 i s b n : 9 7 8 - 4 - 8 6 0 1 5 - 1 4 6 - 1
参考書 Reference(s)	授業中に随時紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活文化概論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：日本文化を基礎として身近な生活文化を学ぶ。</p> <p>○授業の目的、概要 本講は、人間生活の基礎を文化的側面から解明するものである。その学問的内容は、衣食住の生活をはじめ生活経営、生活経済、生活管理、自然環境など多様な専門分野から構成されている。これらは、人と人、人とモノ、モノとモノの関わりが強く、ライフデザインを形成している。時代とともに変わり行く生活を快適かつ円滑に運営するための知識を学び、これらを通じて日常生活のなかで「自分の身近な様子」「身近なモノや空間への興味」が持てるよう、日本文化を踏まえながら解説する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 日本人と生活文化 3. 春夏秋冬と日本人の秩序感覚 4. 色彩と日本文化 5. 箸や茶碗の高級道具 6. 日本独自の食文化 7. 日本と欧米の違い—食の文化— 8. 日本と欧米の違い—インテリアの文化— 9. 畳の普及と座る文化 10. 靴の文化と裸足の文化 11. 「間」の文化とは 12. 「間」の文化—結界と気持ちのけじめ— 13. 「礼」の文化 14. 「着る」の文化 15. 年中行事の由来
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業の形式や授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像やビデオを使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験70%、提出物30%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。
教科書 Textbook(s)	○教科書・参考書：プリントを配布。
参考書 Reference(s)	○参考書は、授業中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活防災学						
担当教員	石川 永子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自らが生活するすまいや周辺における防災対策を考えるための基礎的な知識の習得 阪神・淡路大震災を経験した神戸に学ぶ学生として、震災復興と防災対策に関する基礎的な知識を習得する。 震災復興に関して、具体的には、①地震発生のメカニズム、②阪神・淡路大震災での被害、③復興過程における社会・経済的な課題、④復興公営住宅等の住宅再建に関する行政支援とその課題、⑤阪神・淡路大震災以後の災害による被害と復興について講義する。 ●防災対策に関しては、①東南海・南海地震における被害想定、②住宅・小中学校の耐震化等ハード面での整備について、③自主防災組織やNPOと住民によるの地域防災力向上のためのとりくみ等のソフト面の整備について講義する。 ●防災・復興における住環境について考える力を身につける ファッション・ハウジング学科の学生として、特に「生活」「すまい」という切り口から、高齢化社会における震災復興と防災対策を考える。例えば、阪神・淡路大震災の復興過程でつくられたコレクティブハウジングについてや、高齢者・障がい者にやさしい対策としての防災のユニバーサルデザイン化について、住教育の視点から防災教育を考える、等を予定している。 						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「生活防災学」講義の概要説明 2) 阪神・淡路大震災の被害と復興まちづくり 3) 人と防災未来センター見学（日時は受講者と調整） 4) 高齢者等の災害時の避難生活環境について 5) 阪神・淡路大震災の復興に関するワークショップ 6) 地震災害からのすまいの復興（特に都市部の高齢者について） 7) 地震災害からのすまいの復興（地方都市と中山間地域について） 8) 地震発生のメカニズムと建築物の安全性 9) 地震災害と防災都市計画 10) 地球温暖化と水害・津波への備えについて 11) 海外の災害と復興・災害とボランティア 12) ユニバーサルデザインとすまいの安全・安心 13) ユニバーサルデザインと防災まちづくり 14) ユニバーサルデザイン防災に関するワークショップ 15) 「生活防災学」まとめ 期末テスト 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	具体的な事例の写真や映像を使用して講義を行う。 発表やグループワークを取り入れた参加型の授業とする。						
評価方法 Evaluation	平常点30%、中間小レポート30%、期末テスト40%						
履修上の注意 Requirements and policy	生活防災学として日常の生活面での防災・復興の基本的な考え方を習得することを目的とするが、ハウジングデザインに関連した「すまい」「まち」の防災・復興について重点的に講義する。						
教科書 Textbook(s)	プリント配布による						
参考書 Reference(s)	随時紹介する						

備考 Remarks	レポート課題として、防災教育施設あるいは復興まちづくりに関する見学を1回予定。交通費は自己負担（神戸市内）。
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	崔 童殷						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッションの専門領域では、大きくファッションデザイン系（モノづくり及びデザイン）、ファッションイメージ系（流行及び消費者購買パターン分析）、ファッションビジネス系（企画及び生産）などその範囲が非常に広く研究されています。この授業では、ファッションデザイン系（モノづくり及びデザイン）の領域を中心に興味がある内容で研究を行うように指導します。疑問を持った内容をテーマに文献を調べたり、インタビューを行ったり調査を行うなど理論的に論じる力を身につけると共に、4年間学んだ様々な教育内容及びモノづくりのスキルを生かし、作品制作の完成・発表できるように指導を行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2) テーマと作品制作の説明 3) 各自の研究テーマや制作計画について発表Ⅰ 4) 各自の研究テーマや制作計画について発表Ⅱ 5) 各自の研究テーマや制作計画について発表Ⅲ 6) 作品制作とフォートフォリオの作り方の説明Ⅰ 7) 作品制作とフォートフォリオの作り方の説明Ⅱ 8) 各自の作品制作指導Ⅰ 9) 各自の作品制作指導Ⅱ 10) 各自の作品制作指導Ⅲ 11) 各自の作品制作指導Ⅳ 12) 各自の中間発表について指導Ⅰ 13) 各自の中間発表について指導Ⅱ 14) 中間発表のプレゼンテーションⅠ 15) 中間発表のプレゼンテーションⅡ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) オリエンテーション（作品制作の方針・進め方の説明） 17) 作品の制作成果物のまとめ方Ⅰ 18) 作品の制作成果物のまとめ方Ⅱ 19) 作品の制作成果物のまとめ方Ⅲ 20) 作品の制作成果物の完成Ⅰ 21) 作品の制作成果物の完成Ⅱ 22) 作品の制作成果物の完成Ⅲ 23) 作品の制作成果物の考察Ⅰ 24) 作品の制作成果物の考察Ⅱ 25) 卒業研究概要の書き方 26) 研究成果のボード作成について指導Ⅰ 27) 研究成果のボード作成について指導Ⅱ 28) 卒業研究発表について指導Ⅰ 29) 卒業研究発表について指導Ⅱ 30) 卒業研究発表（プレゼンテーション）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	
履修上の注意 Requirements and policy	

教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	演習形式（個人指導も含む） プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業作品制作過程における中間評価、最後の提出物の内容 各自のテーマに基づいて研究を進めるので、研究プロセスのスケジュールなどは責任をもって管理すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	徳山 孝子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○授業内容</p> <p>デザイン特別演習で学んだ知識をもとに、文化的なアプローチとしては、生活文化領域を中心に生活に身近なモノのデザインをテーマに、人間の精神的あるいは知的行為がどのように介在しているかを資料・文献収集、図像学的分析によって明らかにする。また、科学的なアプローチとしては、感性デザイン領域を中心に色や形をテーマとして、それらに対する心の動きを官能検査や統計解析によって科学的に解明する。これらの卒業研究から、ヒトの心がどのようにモノのデザインに作用しているかを理解し、デザイン設計や商品開発等に応用する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2) テーマと研究方法の説明 3) 各自の研究について発表 I 4) 各自の研究について発表 II 5) 各自の研究について発表 III 6) 各自の研究方法について指導 I 7) 各自の研究方法について指導 II 8) 各自の研究方法について指導 III 9) 各自の研究方法について指導 IV 10) 各自の中間発表について指導 I 11) 各自の中間発表について指導 II 12) 各自の中間発表について指導 III 13) 各自の中間発表について指導 IV 14) 中間発表のプレゼンテーション I 15) 中間発表のプレゼンテーション II <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 17) 研究成果と図表の作り方 18) 研究成果と卒論構成 I 19) 研究成果と卒論構成 II 20) 研究成果と考察・結論 I 21) 研究成果と考察・結論 II 22) 研究成果と考察・結論 III 23) 研究成果と考察・結論 IV 24) 卒業論文の最終チェック 25) 卒業研究概要の書き方 26) 研究成果のボード作成について指導 I 27) 研究成果のボード作成について指導 II 28) 卒業研究発表について指導 I 29) 卒業研究発表について指導 II 30) 卒業研究発表（プレゼンテーション）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式（個人指導も含む）
評価方法 Evaluation	プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業論文作成過程における中間評価、卒業論文の内容など 提出物100%
履修上の注意 Requirements and policy	授業の参加が重要のため出席を重視する。調査、文献資料などにかかる入場料、交通費などの実費負担がある。

教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中林 浩						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	都市計画・地域計画にかかわる研究・制作。 様式は学科の基本方針にしたがうが、オリジナリティのある研究・制作であることがいちばん重要なことである。
授業計画 Syllabus	ゼミ員が各自のテーマにしたがって発表と討議をくりかえす。 ゼミであるので、変わりうるが一例を示す 1発表と討議1回め 2発表と討議2回め 3発表と討議3回め 4発表と討議4回め 5発表と討議5回め 6発表と討議6回め 7発表と討議7回め 8発表と討議8回め 9発表と討議9回め 10発表と討議10回め 11発表と討議11回め 12発表と討議12回め 13発表と討議13回め 14発表と討議14回め 15発表と討議15回め 16発表と討議16回め 17発表と討議17回め 18発表と討議18回め 19発表と討議19回め 20発表と討議20回め 21発表と討議21回め 22発表と討議22回め 23発表と討議23回め 24発表と討議24回め 25発表と討議25回め 26発表と討議26回め 27発表と討議27回め 28発表と討議28回め 29発表と討議29回め 30発表と討議30回め
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とする。 各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもある。 金曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがある。 研究のまとめのための合宿なども条件があれば行う。
評価方法 Evaluation	最終的な提出物100%
履修上の注意 Requirements and policy	とくになし
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中村 茂						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	デザイン特別演習を踏まえて、制作系のテーマとしてはファッション領域を中心とするメディア・デザイン、例えばファッションブランドのプロモーション・ツールなどのグラフィック・デザインや、ファッション現象のリサーチ結果のエディトリアル・デザイン表現など、また、論文系のテーマとしては現代デザインの社会・文化的問題を発見・調査し、批判的検証・考察を加えて論文にまとめる。こうした卒業研究を通じて、積極的にデザインの在り方を提案し、社会貢献を果たすことを目的とする。
授業計画 Syllabus	
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	平常点、論文または制作物の内容、完成度
履修上の注意 Requirements and policy	各自のテーマに基づいて研究を進めるので、研究プロセスのスケジュールなどは責任をもって管理すること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	増永 理彦						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>卒業研究は、卒業論文と卒業制作のうちどちらを選択してもよい。また、内容としては住居（住宅、住生活、居住全般）とインテリア（設計中心ではない内容）の二分野である。</p> <p>1～3年生で学んだ「知恵」を基礎に、大学の学びの総まとめとして、何か新たなものを創出するという目標を持ち、意識的に取り組むことが重要である。そうすることにより、卒業後就職もしくは大学院などに進学後も、振り返ってみて何かやり遂げたという達成感もしくは何か得たものが実感できる。大事なことは、自分でテーマを設定し、自分で粘り強く調べ、他人に聞きそしてまとめ、先行の研究や制作されたものからも学び、そして決められた条件に従い自力でまとめあげることである。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>1：卒研とは何か（1）テーマの設定方法・・・関心の分野の設定、研究企画を立てる、論文の書き方、制作イメージ提案、先行研究、</p> <p>2：卒研とは何か（2）年間の研究計画</p> <p>3：卒研とは何か（3）学生との討論</p> <p>4：学生のテーマ発表と討論（1）</p> <p>5：学生のテーマ発表と討論（2）</p> <p>6：学生のテーマ発表と討論（3）</p> <p>6：研究内容、計画の検討、発表、・・・先行研究、情報収集、文献読み込み、制作方法</p> <p>7：学生指導（1）</p> <p>8：学生指導（2）</p> <p>9：学生指導（3）</p> <p>10：学生指導（4）</p> <p>11：中間発表準備</p> <p>12：学生発表指導（1）</p> <p>13：学生発表指導（2）</p> <p>14：学生発表指導（3）</p> <p>15：論文、制作内容の骨子構築、確認・・・ゼミでの中間発表</p> <p>16：論文の作成指導①・・・情報、文献、調査、類似制作物の検討・イメージアップ</p> <p>17：調査の進め方</p> <p>18：類似作品の検索、検討</p> <p>19：学生指導（1）</p> <p>20：学生指導（2）</p> <p>21：学生指導（3）</p> <p>22：論文の作成指導②・・・原稿を書く、制作する</p> <p>23：学生指導（1）</p> <p>24：学生指導（2）</p> <p>25：学生指導（3）</p> <p>26：卒業研究のまとめ指導</p> <p>27：学生指導（1）</p> <p>28：学生指導（2）</p> <p>29：ゼミ内発表、講評</p> <p>30：プレゼの準備</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	ハウジング領域及び学科教員による審査を経た上で、平常点30%、研究（論文、制作）内容70%						

履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none">・ゼミでの発表と討論を重視、他のゼミ生の発表もよく聞くこと・毎回のゼミ無断欠席厳禁、必本人が申し出ること・フィールド調査などで、学外に出ることあるが、交通費などの費用は自己負担
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	適宜紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	米原 慶子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン特別演習を通じ、各自が考えた住空間デザインへの問題提起をテーマとし、提案的な卒業研究/制作に取り組む。</p> <p>ゼミ形式で、各自のテーマに応じて必要な調査を行ない、随時発表・討論を行ないながら制作をすすめ、様々な住空間の計画・設計、インテリアデザイン等の作品にまとめる。</p> <p>またそのプロセスについては、制作ノートにまとめる。</p> <p>図面、模型、スライド等に表現し、プレゼンテーションを行なう。</p>						
授業計画 Syllabus	第1回	ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理					
	第2回	第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究（図面トレース、スタディ模型制作等）、ヒアリング等					
	第3回	第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析					
	第4回	第1段階 基礎研究のまとめ					
	第5回	第1段階 基礎研究の発表用プレゼンテーションボードの作成					
	第6回	第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備					
	第7回	第2段階 「基本計画」 エスキース					
	第8回	第2段階 エスキースチェック、修正					
	第9回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第10回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第11回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第12回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第13回	第2段階 まとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作					
	第14回	第2段階 プレゼンテーションボードの制作					
	第15回	第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画					
	第16回	第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画					
	第17回	第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備					
	第18回	第3段階 詳細図、パース、模型などの制作					
	第19回	第3段階 詳細図、パース、模型などの制作					
	第20回	第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作					
	第21回	第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導					
	第22回	最終段階 追加修正図面の作成、プレゼンテーションボードの制作					
	第23回	最終段階 プレゼンテーションボードの制作					
	第24回	最終段階 制作ノートの整理、まとめ					

授業計画 Syllabus	第25回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、提出 第26回 最終段階 概要集用図面の編集 第27回 最終段階 概要集用図面の制作 第28回 最終段階 発表用パワーポイントの作成 第29回 最終段階 発表用パワーポイントのチェック、修正 第30回 最終プレゼンテーション
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ハウジングデザイン領域の卒業作品制作を中心としたゼミナール。
評価方法 Evaluation	評価比率は、最終作品の評価50%、中間段階の提出物20%、平常点30%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	卒業作品の制作には、多大な時間とエネルギーが必要である。 自己責任でしっかりとスケジュール管理を行ない、十分な制作時間を確保すること。 各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	各自のテーマに応じて紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションデザインに効果的なテキスタイルをデザイン・生産するための基本知識習得を目的として衣服の素材であるテキスタイルの構造、性質、組織、生産、染色、加工技法などの特徴を理解させる。同時に、さまざまな民族に伝わる独自の染色加工方法やプリント柄や織物のデザインを企画提案するとともに作品の制作を目標とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションでは、授業の全体の流れを説明する。それからファッション素材に関する理解を得るために素材の構成（織物、糸、繊維、高分子）などについて説明する。 2. 繊維から織物になる過程について（西陣織をおる職人から日本の伝統の織物の過程を学ぶ） 3. 「糸、布をデザインする」ということは？ 4. テキスタイルデザインソフトである4Dboxの基礎を学ぶ 5. 4Dbox-①プリントデザイン 6. 4Dbox-②プリントデザイン 7. 4Dbox-③プリントデザイン 8. 4Dbox-①先染めデザイン 9. 4Dbox-②先染めデザイン 10. 4Dbox-③先染めデザイン 11. 4Dbox-①ニットデザイン 12. 4Dbox-②ニットデザイン 13. 4Dbox-③ニットデザイン 14. 作品制作 15. 作品発表
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出（40%）およびレポート（10%）、出席状況（50%）を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし（やむをえない場合は、2/3以上の出席）。作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン企画論						
担当教員	井村 仁郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「デザイン」とは広く物を作るプロセスとそのプロセスの産物を示す言葉ですが、本講義においては、商品やビジネスの領域においてデザインが担う物の作り手（企業）と受け手（消費者）とのコミュニケーションという側面に着目し、デザインを決定するマーケティングと企画の考え方について概説します。 講義の前半では、身近な商品が持つデザインを切り口にマーケティング手法についての一般論の講義を行い、後半ではマーケティングの視点から戸建住宅市場におけるニーズを住宅商品開発事例を元に解説します。そして最後の理解を深めるためにグループでの商品企画演習を行います。
授業計画 Syllabus	第1回 企画デザインの概要 第2回 身近なデザインに見るマーケティング 第3回 マーケティング理論1 第4回 マーケティング理論2 第5回 デザインの表現 第6回 戸建住宅マーケティング実例1 第7回 戸建住宅マーケティング実例2 第8回 戸建住宅マーケティング実例3 第9回 戸建住宅マーケティング実例4 第10回 住宅建材におけるマーケティング 第11回 戸建住宅商品企画事例 第12回 企画演習1（個人ワーク） 第13回 企画演習2（グループワーク） 第14回 企画演習3（発表） 第15回 質疑とテスト
参照URL Reference URL(s)	なし
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	テスト50%、発表30%、演習20%
履修上の注意 Requirements and policy	1) 履修の対象者：主に戸建住宅におけるデザインや商品の開発に関心のある方を対象とします。 2) 講義の途中で1～2回程度の宿題（身の回りの事例収集など）を行うことがあります。 最後の企画演習では、若干の授業時間外の作業が発生する場合があります。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子・崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、3クラスに分かれて5回づつ3通りの演習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得します。(中村) ・消費者の立場から、自身のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解します。(徳山) ・生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み(テイスト)を分類・操作するスキルを習得します。(笹崎)
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッション・デザインの学びと意義 2. マイ・ファッション・ヒストリー(1) —ブレイン・ストーミングとマインドマップ— 3. 学科PCオリエンテーション WORDの使い方 4. マイ・ファッション・ヒストリー(2) —ファイル編集— 5. マイ・ファッション・ヒストリー(3) —WORDによるレポート制作— 6. ライフスタイルとファッション 7. ライフスタイルと自己分析 8. パーソナルカラー 9. ワードローブのコーディネート 10. マイ・ワードローブ —ファイル編集— 11. ファッション用語の収集及び小物のデザインを整理する 12. ファッションアイテムの分類 13. ファッション・素材の分類 14. 「国」というテーマによるイメージボードの制作 15. コンピュータ作業によるイメージボードの完成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	レポート、課題提出、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	各演習は5回で完結し、グループによる演習・課題制作を行う場合もあるので欠席しないこと。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子・崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、3クラスに分かれて5回づつ3通りの演習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得します。(中村) ・消費者の立場から、自身のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解します。(徳山) ・生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み(テイスト)を分類・操作するスキルを習得します。(笹崎)
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッション・デザインの学びと意義 2. マイ・ファッション・ヒストリー(1) —ブレイン・ストーミングとマインドマップ— 3. 学科PCオリエンテーション WORDの使い方 4. マイ・ファッション・ヒストリー(2) —ファイル編集— 5. マイ・ファッション・ヒストリー(3) —WORDによるレポート制作— 6. ライフスタイルとファッション 7. ライフスタイルと自己分析 8. パーソナルカラー 9. ワードローブのコーディネート 10. マイ・ワードローブ —ファイル編集— 11. ファッション用語の収集及び小物のデザインを整理する 12. ファッションアイテムの分類 13. ファッション・素材の分類 14. 「国」というテーマによるイメージボードの制作 15. コンピュータ作業によるイメージボードの完成
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	レポート、課題提出、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	各演習は5回で完結し、グループによる演習・課題制作を行う場合もあるので欠席しないこと。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子・崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、3クラスに分かれて5回づつ3通りの演習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得します。(中村) ・消費者の立場から、自身のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解します。(徳山) ・生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み(テイスト)を分類・操作するスキルを習得します。(笹崎)
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッション・デザインの学びと意義 2. マイ・ファッション・ヒストリー(1) —ブレイン・ストーミングとマインドマップ— 3. 学科PCオリエンテーション WORDの使い方 4. マイ・ファッション・ヒストリー(2) —ファイル編集— 5. マイ・ファッション・ヒストリー(3) —WORDによるレポート制作— 6. ライフスタイルとファッション 7. ライフスタイルと自己分析 8. パーソナルカラー 9. ワードローブのコーディネート 10. マイ・ワードローブ —ファイル編集— 11. ファッション用語の収集及び小物のデザインを整理する 12. ファッションアイテムの分類 13. ファッション・素材の分類 14. 「国」というテーマによるイメージボードの制作 15. コンピュータ作業によるイメージボードの完成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	レポート、課題提出、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	各演習は5回で完結し、グループによる演習・課題制作を行う場合もあるので欠席しないこと。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子・崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、3クラスに分かれて5回づつ3通りの演習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得します。(中村) ・消費者の立場から、自身のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解します。(徳山) ・生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み(テイスト)を分類・操作するスキルを習得します。(笹崎)
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッション・デザインの学びと意義 2. マイ・ファッション・ヒストリー(1) —ブレイン・ストーミングとマインドマップ— 3. 学科PCオリエンテーション WORDの使い方 4. マイ・ファッション・ヒストリー(2) —ファイル編集— 5. マイ・ファッション・ヒストリー(3) —WORDによるレポート制作— 6. ライフスタイルとファッション 7. ライフスタイルと自己分析 8. パーソナルカラー 9. ワードローブのコーディネート 10. マイ・ワードローブ —ファイル編集— 11. ファッション用語の収集及び小物のデザインを整理する 12. ファッションアイテムの分類 13. ファッション・素材の分類 14. 「国」というテーマによるイメージボードの制作 15. コンピュータ作業によるイメージボードの完成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	レポート、課題提出、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	各演習は5回で完結し、グループによる演習・課題制作を行う場合もあるので欠席しないこと。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>●目的</p> <p>テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に応える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。</p> <p>中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨て勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、 体験的・実践的な学び方を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(増永担当)</p> <p>第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える（1） 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える（2） 第4回 自分の住まいを解剖する（1） 第5回 自分の住まいを解剖する（2）</p> <p>(中林担当)</p> <p>第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心その1、想像をたくましく 第5回 アーバンデザインの絵心その2、立体をデザインする</p> <p>(米原担当)</p> <p>第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第5回 第2課題の発表と講評</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	・ 3人の専任教員により、5コマずつのオムニバス方式により進める。進め方は各教員独自の方法を採用。
評価方法 Evaluation	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、各5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。 ・ 基本は、平常点30%、レポートなど提出物70%
履修上の注意 Requirements and policy	・ 本演習は必修科目であり、必ず1年生のときに単位を取得すること。 ・ レポート課題として、ハウジング・インテリア関連の見学を1回予定、交通費等は自己負担（米原）。
教科書 Textbook(s)	・ プリント配布
参考書 Reference(s)	・ 随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>●目的</p> <p>テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に答える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。</p> <p>中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨て勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、 体験的・実践的な学び方を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(増永担当)</p> <p>第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える（1） 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える（2） 第4回 自分の住まいを解剖する（1） 第5回 自分の住まいを解剖する（2）</p> <p>(中林担当)</p> <p>第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心その1、想像をたくましく 第5回 アーバンデザインの絵心その2、立体をデザインする</p> <p>(米原担当)</p> <p>第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第5回 第2課題の発表と講評</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	・ 3人の専任教員により、5コマずつのオムニバス方式により進める。進め方は各教員独自の方法を採用。
評価方法 Evaluation	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、各5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。 ・ 基本は、平常点30%、レポートなど提出物70%
履修上の注意 Requirements and policy	・ 本演習は必修科目であり、必ず1年生のときに単位を取得すること。 ・ レポート課題として、ハウジング・インテリア関連の見学を1回予定、交通費等は自己負担（米原）。
教科書 Textbook(s)	・ プリント配布
参考書 Reference(s)	・ 随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>●目的 テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に応える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。</p> <p>中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨て勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、体験的・実践的な学び方を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(増永担当)</p> <p>第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える(1) 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える(2) 第4回 自分の住まいを解剖する(1) 第5回 自分の住まいを解剖する(2)</p> <p>(中林担当)</p> <p>第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心その1、想像をたくましく 第5回 アーバンデザインの絵心その2、立体をデザインする</p> <p>(米原担当)</p> <p>第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第5回 第2課題の発表と講評</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	・ 3人の専任教員により、5コマずつのオムニバス方式により進める。進め方は各教員独自の方法を採用。
評価方法 Evaluation	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、各5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。 平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	・ 本演習は必修科目であり、必ず1年生のときに単位を取得すること。 ・ レポート課題として、ハウジング・インテリア関連の見学を1回予定、交通費等は自己負担（米原）。
教科書 Textbook(s)	・ プリント配布
参考書 Reference(s)	・ 随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>●目的</p> <p>テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に答える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・・・・・・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。</p> <p>中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨てて勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、 体験的・実践的な学び方を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(増永担当)</p> <p>第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える(1) 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える(2) 第4回 自分の住まいを解剖する(1) 第5回 自分の住まいを解剖する(2)</p> <p>(中林担当)</p> <p>第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心その1、想像をたくましく 第5回 アーバンデザインの絵心その2、立体をデザインする</p> <p>(米原担当)</p> <p>第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第5回 第2課題の発表と講評</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	・ 3人の専任教員により、5コマずつのオムニバス方式により進める。進め方は各教員独自の方法を採用。
評価方法 Evaluation	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、各5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。 平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	・ 本演習は必修科目であり、必ず1年生のときに単位を取得すること。 ・ レポート課題として、ハウジング・インテリア関連の見学を1回予定、交通費等は自己負担（米原）。
教科書 Textbook(s)	・ プリント配布
参考書 Reference(s)	・ 随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	デザイン分野における視覚的側面について心理学的に解説する。まず、見ることのメカニズムを絵画、幾何学的錯視、遠近法などから考え、画面の左右差を大脳の左右差と関連させる。次いで、子どもの描いた絵を取り上げて、描画の発達や創造性、絵に表れた心情などについて心理学から解明する。授業を聴くだけでなく、鉛筆を使って簡単な実習を行う。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美的欲求、マズローの欲求階層説、心理学と美学 2. サプリミナル単純接触効果 3. 無意識の諸相（ダリとフロイト） 4. 図と地と近代絵画 5. 幾何学的錯視 6. 工場制 7. 遠近法 8. 色のイメージ 9. 大脳の左右差 10. 左右反転と美的判断 11. 構図について 12. 流行の心理学 13. 子どもの絵と対象の理解 14. 創造性の因子、テスト実施 15. パーソナル・スペース 答案返却と解説、再テスト
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義、視聴覚教材、簡単な実習
評価方法 Evaluation	筆記試験（70%）と不定期の提出物など（30%）により総合的に評価を行います。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回の出席を前提に話を進めるので、途切れず出席すること。
教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培ったスキルを応用し、作品を制作する。初めに、これまで学んできたイメージ、歴史、身体、文化に関する知識を基に、各自の興味に沿ったコンセプトの設定、衣服のデザイン、素材、ボリュームのプランニングを提示する。その際、ファッションプレゼンテーション演習Ⅱと合わせて、企画、制作、発表という一連の流れを意識し、卒業研究・制作を視野に入れることが望ましい。次に、デザインした衣服の中から最もコンセプトを表現できる一体を選択、制作させる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションでは、授業の目的や全体の流れを説明する。 2. 研究というものはどうやっていくのか (文献調べや資料を参考にするためにはどうすべきか) 3. 研究方法を学ぶ (ものの調べ方やアンケート調査方法を学ぶ) 4. 文献や資料を調べる。 5. 文献を読む (興味がある分野及びテーマを決め文献を調べ、文献を読み、分析する) 6. 研究テーマを決め、その背景をリサーチする。 7. 研究の目的を探り、研究計画を立てる。 8. 研究方法に従い、調査方法を考える 9. 調査した結果のデータ処理 10. 調査した結果のデータ処理① 11. 調査した結果のデータ処理② 12. 調査した結果のデータ処理③ 13. 調査結果の分析方法 14. 分析結果のまとめ方 15. 成果物の発表
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出(30%)およびレポート(20%)、出席状況(50%)を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	演習のため、原則、欠席・遅刻なし(やむをえない場合は、2/3以上の出席)。作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	配布プリントを参考すること
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：「着る・装う」という行為を様々な方法から学ぶ。</p> <p>○授業の目的、概要 3年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、感性デザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。 「着る」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、画像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるよう演習を通じて学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）： 2. 図書館の利用の仕方と文献収集 3. 文献のまとめ方 4. 論文の書き方の説明 5. 論文の書き方の練習、発表 6. 調査方法と実験方法の説明 7. アンケート作成の練習、発表 8. インタビューの練習、発表 9. 官能検査の説明 10. SD法の説明 11. 統計解析の演習① Excelを使って練習、発表 12. " ② ソフトSPSSによる練習（検定法） 13. " ③ ソフトSPSSによる練習（多変量解析） 14. 多変量解析による結果と読み方、発表 15. 文献資料のまとめ方
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：発表70%、提出物30%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。
参考書 Reference(s)	○参考書：演習中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	4年生での卒業研究へと続く都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミである。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行う。
授業計画 Syllabus	ゼミであるから、ゼミ員の討論によって変わるのでこれは例示である <ol style="list-style-type: none"> 1 都市計画の歴史（文献購読） 1 2 都市計画の歴史（文献購読） 2 3 テーマの設定 1 4 テーマの設定 2 5 テーマの設定 3（対象地域の設定） 6 調査 1 7 調査 2 8 調査 3 9 調査の中間まとめ 10 調査 4 11 調査 5 12 調査のまとめ 13 レポートやパネルづくり 1 14 レポートやパネルづくり 2 15 レポートやパネルづくり 3
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	文献購読、話しあい、調査、調査のまとめ（レポート・パネル）
評価方法 Evaluation	「3年生論文」というようなかたちで、卒業論文にむけたものを作成する。オリジナリティを重視し、A4で3枚ほどの短いものとする。100%の評価はそれで行う
履修上の注意 Requirements and policy	学外に出ることもある また、調査は土曜日や日曜日に振り返られることも多い
教科書 Textbook(s)	新書を2冊ほど選定する（講義が始まってから購入する）
参考書 Reference(s)	授業中にたくさん紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	3年次までのデザイン基礎科目やイメージリテラシー科目の学習を基盤に、ファッション領域を中心とするデザインの記号的な側面を理解し、その背景や基盤となる社会・文化的要因への関心を高める。またそうした理解を踏まえて具体的な現象の中にテーマを探し、新たな視点からその分析や考察を試み、その結果を分かり易い視覚表現に編集することを目標とする。他方で創造的かつ魅力的なイメージ表現手法やメディア操作技法の習得も試みる。さらに卒業研究の前段階として各自の問題意識の深化とテーマの具体化を促す演習を行う。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマ設定 (1) 従来の履修内容・関心事項、将来の進路などの検討 3. テーマ設定 (2) キーワードの整理と抽出 4. テーマ設定 (3) 研究目的・対象・方法・成果物の検討 5. 調査資料の収集・検索方法、調査計画・スケジュール 6. テーマ説明 (1) 質疑応答 7. テーマ説明 (2) 質疑応答 8. テーマ説明 (3) 質疑応答 9. 資料検討 (1) 収集資料の要約・整理 10. 資料検討 (2) 収集資料の要約・整理 11. 資料検討 (3) 収集資料の要約・整理 12. レポート概要・項目・目次の検討 13. レポート・提出物制作 (1) 14. レポート・提出物制作 (2) 15. プレゼンテーションと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点 (授業への積極的な参加、欠席の場合は減点) 20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%
履修上の注意 Requirements and policy	このデザイン特別演習は卒業研究へ直接つながる重要な演習であることを自覚して、積極的な発言や自律的な演習への参加が望まれます。またグループによる課題を実施する場合は協調性や責任感の有無を重視します。
教科書 Textbook(s)	特に指定しない。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習は、4年次での卒業研究（設計、論文）の準備段階と位置づけ、1～3年間で学んだことを基礎にしながら、自分でテーマを設定し、自分の考えることを論文レポートもしくは基本設計図にまとめあげることが狙いである。 ・テーマは、インテリア（非設計）、住居全般から各自の興味・関心に応じて教員と相談しながら決める。 ・まとめ方として、レポート（論文）、基本設計かは各自選択できる。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、特別演習のテーマ設定と進め方</p> <p>第2回 テーマ設定・・・住宅の再生、高齢者居住、住居全般のなかで各自何を選ぶか</p> <p>第3回 テーマ設定・・・各自のイメージメモを</p> <p>第4回 テーマ設定・・・各自レポート</p> <p>第5回 テーマ設定・・・各自のテーマの大枠設定</p> <p>第6回 各自から関連資料・図書、設計作品の提示、イメージスケッチなど（1）</p> <p>第7回 各自から関連資料・図書、設計作品の提示、イメージスケッチなど（2）</p> <p>第8回 レポート骨子、スケッチ（1）</p> <p>第9回 レポート骨子、スケッチ（2）</p> <p>第10回 中間講評、見学会</p> <p>第11回 まとめかた・・・レポートと基本設計の描き方</p> <p>第12回 まとめる（1）レポートと基本を設計描く</p> <p>第13回 まとめる（2）レポートと基本設計を描く</p> <p>第14回 まとめる（3）・・・完成させる</p> <p>第15回 全員による講評会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式、討論重視
評価方法 Evaluation	平常点30%、レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	住宅地や施設の見学を行なうことがあるが、交通費などは自己負担
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業中に随時紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住空間のデザインについて、関西の近現代の建築家やデザイナーの作品を中心に、社会的、文化・芸術的視点から読み解きながら、問題意識を深めていく。関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、随時レポートにまとめる。またポートフォリオや小課題の制作、発表、討論を積み重ね、最終的に住空間デザインへの問題提起につなげ、卒業研究/制作のテーマ設定を行なっていく。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ設定について、ポートフォリオの作り方</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオの作成</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオの作成</p> <p>第4回 第1課題 発表と講評、第2課題 関西の作家研究 課題説明</p> <p>第5回 第2課題 参考資料検索、質疑応答</p> <p>第6回 第2課題 参考作品資料の作成</p> <p>第7回 第2課題 発表と討論、第3課題の説明</p> <p>第8回 第3課題 3Dモデリングの練習</p> <p>第9回 第3課題 3Dモデリングによるインテリアエレメントの作成</p> <p>第10回 卒業制作のテーマ設定 中間発表と討論</p> <p>第11回 第4課題 卒業制作のテーマについて 個別相談</p> <p>第12回 第4課題 卒業制作のテーマについて 個別相談</p> <p>第13回 第4課題 卒業制作のテーマについて 発表用パワーポイントの制作</p> <p>第14回 第4課題 パワーポイントの制作</p> <p>第15回 第4課題 パワーポイントによる発表と修正</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習および実習 (CADも使用)
評価方法 Evaluation	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。(評価比率: 小課題30%、最終課題40%、平常点30%)
履修上の注意 Requirements and policy	履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習1」および「ハウジングCAD実習」を履修済の人に限る。3年前期の「インテリアデザイン実習」もあわせて履修することがのぞましい。課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担)
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザインと社会						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「デザインの社会的意味」 「ヒトとデザイン」を踏まえて、より広くデザインとその社会的側面に注目します。 専門分化したデザイン領域の関係性、企画・構想から消費・廃棄に至るデザイン・プロセスの構造などについて概観しながら、特に、ファッション・デザインとハウジング・デザインの間中に存在するプロダクト・デザインの領域に焦点を当てて、社会的に重要性を増しているエコロジーに配慮したデザインの可能性について考えます。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. デザインの領域（1） 3. デザインの領域（2） 4. デザインプロセス（1） 5. デザインプロセス（2） 6. ライフスタイルとデザイン（1） 7. ライフスタイルとデザイン（2） 8. 消費社会とデザイン（1） 9. 消費社会とデザイン（2） 10. 都市とデザイン（1） 11. 都市とデザイン（2） 12. デザイン教育の歴史（1） 13. デザイン教育の歴史（2） 14. 社会的協同のデザイン 15. まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	テスト、レポート、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が必要です。学外の見学を実施する場合があります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。授業中に紹介します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングインターンシップ						
担当教員	単位認定者：中林 浩						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	兵庫県建築設計監理協会などが実施する夏期インターンシップ（ワークスタディ）に参加して、10日間、建築設計事務所にて実務研修を受ける実習科目である。そのことにより、社会現場から実践的かつ実務の仕事実態と設計スキルを学び、かつ、事務所所員などと人的交流することで、自分のキャリアイメージ形成にも役立たせる。
授業計画 Syllabus	<p>設計事務所での10日間実習内容（モデル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長による設計事務所の業務内容の説明、10日間のガイダンス ・着工前現場説明と現地見学・・・着工前のマンション（A） ・工事中現場説明と現地見学・・・工事中の戸建住宅（B） ・（A）についての設計図面類の解説 ・（A）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（B）についての設計図面類の解説 ・（B）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（A）についての模型制作 ・（B）についての仕上げ部材色彩計画 <p>前後の説明会・反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学内での担当教員からのインターンシップ内容説明と実習後の報告会 ・10日間の実習まとめと事務所所内会議での成果発表
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	上述のとおり
評価方法 Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の基準：研修日報とレポート提出（10月上旬） ・成績評価者：FHDのハウジング領域担当教員
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・設計事務所側の受け入れ人数が少ない場合、人数制限することもある。このことから、場合によれば履修できないこともある ・履修者は、受け入れ先設計事務所との間で契約書を個別に締結する ・履修者は、本学学生全員加入の「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）の他に、「学研災付帯賠償責任保険Bコース」に加入すること ・本インターンシップ履修に要する諸費用は学生の負担である
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングCAD実習						
担当教員	川瀬 琢己						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ハウジングデザインの主要な表現方法である建築CADの基本を学ぶ。CADソフトには、VectorWorksを用いて、住宅の平面図や家具図等の2次元の作図を行うための図面表現と操作方法を修得する。図形描画と画像取り込みによるデザイン構成の課題や主要な建築家やデザイナーの作品を題材にしたトレース課題に取り組み、デザインについての理解を深めながら、各自のデザインに応用し、住宅の設計図を描いていく方法を身につける。(主に建築物を対象。)
授業計画 Syllabus	第1回 : ガイダンスと基本操作 第2回 : 基本操作演習Aと第1課題「木造住宅“箱の家” (設計: 難波和彦)のトレース」課題発表・手順0~2 第3回 : 基本操作演習Bと第1課題 手順3 第4回 : 基本操作演習Cと第1課題 手順4 第5回 : 基本操作演習Dと第1課題 手順5~6 第6回 : 第1課題 完成まで 第7回 : 第2課題「家具“ソラリス”(設計: 倉俣史朗)のトレース」 第8回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計: 妹島和世)のトレース」手順1~7 第9回 : 第3課題 手順8~完成まで 第10回 : 第4課題(合同課題)「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 第4課題 エスキス 第12回 : 第4課題 CAD図面制作 第13回 : 第4課題 模型制作 第14回 : 第4課題 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 第4課題 プレゼンテーション及び講評会
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常点15%、第1課題の成績15%、第2課題の成績10%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	欠席した場合は、次回までに自習しておかないと継続できなくなるので注意のこと。授業中にできなかった分については宿題になるので、期限内に提出できるよう、CAD教室の空き時間を利用して課題を進めること。自宅でも進められるよう、VectorWorksの学生向けソフトを購入するのが望ましい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	書名: 第2版 コンパクト建築設計資料集成 住居 著者: 日本建築学会 出版: 丸善 ISBN: 4621035894
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングCAD実習						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ハウジングデザインの主要な表現方法である建築CADの基本を学ぶ。CADソフトには、VectorWorksを用いて、住宅の平面図や家具図等の2次元の作図を行うための図面表現と操作方法を修得する。図形描画と画像取り込みによるデザイン構成の課題や主要な建築家やデザイナーの作品を題材にしたトレース課題に取り組み、デザインについての理解を深めながら、各自のデザインに応用し、住宅の設計図を描いていく方法を身につける。(主に建築物を対象。)						
授業計画 Syllabus	第1回 : ガイダンスと基本操作 第2回 : 基本操作演習Aと第1課題「木造住宅“箱の家” (設計: 難波和彦)のトレース」課題発表・手順0~2 第3回 : 基本操作演習Bと第1課題 手順3 第4回 : 基本操作演習Cと第1課題 手順4 第5回 : 基本操作演習Dと第1課題 手順5~6 第6回 : 第1課題 完成まで 第7回 : 第2課題「家具“ソラリス”(設計: 倉俣史朗)のトレース」 第8回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計: 妹島和世)のトレース」手順1~7 第9回 : 第3課題 手順8~完成まで 第10回 : 第4課題(合同課題)「六甲の小住宅(2階建)の設計」CAD図面制作 平面図 第11回 : 第4課題 CAD図面制作 立面図 第12回 : 第4課題 CAD図面制作 断面図他 第13回 : 第4課題 模型制作 第14回 : 第4課題 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 第4課題 プレゼンテーション及び講評会						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	実習						
評価方法 Evaluation	平常点15%、第1課題の成績15%、第2課題の成績10%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
履修上の注意 Requirements and policy	欠席した場合は、次回までに自習しておかないと継続できなくなるので注意のこと。授業中にできなかった分については宿題になるので、期限内に提出できるよう、CAD教室の空き時間を利用して課題を進めること。自宅でも進められるよう、VectorWorksの学生向けソフトを購入するのが望ましい。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。						
参考書 Reference(s)	書名: 第2版 コンパクト建築設計資料集成 住居 著者: 日本建築学会 出版: 丸善 ISBN: 4621035894						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン概論						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ハウジングデザインに関する基礎的知識の習得。ハウジングデザインに関する入門として、住居とそのデザインに関する概要を知る講義である。ハウジングデザイン論Ⅰ、ハウジングデザイン論Ⅱと連携し、3科目全体でハウジングデザインの基礎大要を把握できるようにする。ハウジングデザインに関する科目では、唯一必修科目に指定されている。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、住まいの色々 (スライド) 2. 日本の住まいの特徴 3. 住居の歴史・・・中世まで (スライド) 4. 住居の歴史・・・近代 (スライド) 5. 住居の歴史・・・現代 (スライド) 6. これからの住居・・・スライド 7. 間取りの特徴・・・公室、 8. DKの誕生 (ビデオ) +小テスト 9. 間取の特徴・・・私室、 10. 高齢者の住まい (元気な高齢者)・・・スライド 11. 高齢者の住まい (要介護高齢者)・・・スライド 12. 住宅の分類と選択 13. 戸建住宅と集合住宅 14. 高層居住・・・DVD +小テスト 15. これからの住まい・・・学生からの提案、レポート+発表
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用する以外に、プリント配布あるいはビデオ、スライドなどを活用する。 ・毎回、ハウジングデザイン等に関する質問を受け付ける。次回にコメントをするなど、双方向の授業とする。
評価方法 Evaluation	平常点：30%、小テスト+レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目であり、必ず1年生において単位を取得すること ・教科書に書かれている「読書案内」の本を何冊か読むこと。
教科書 Textbook(s)	<ul style="list-style-type: none"> ・湯川聡子他 著 「新版 住居学入門」(学芸出版社) i s b n : 9 7 8 - 4 - 7 6 1 5 - 2 2 3 7 - 7
参考書 Reference(s)	<ul style="list-style-type: none"> ・その他授業中に適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習Ⅰ						
担当教員	井上 晋一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	低層住宅の単体あるいは集住・集合体について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行なう。一年次に学習した住居の基礎知識あるいは2年前期での「ハウジングCAD実習」で習得するスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し模型などを作る。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。
授業計画 Syllabus	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション及び講評会
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	建築設計の初めての実践的な授業であり建築製図の基礎を学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し締切厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとして以下の道具を購入する必要があります。大学での実習では教室備え付けの備品がある程度利用できますが、自宅での制作や他のハウジング系実習授業、更には卒業後の二級建築士受験の際にも必要です。詳細については授業中に説明します。 ●製図に必要な道具 平行定規簡易式A2版or T定規、三角定規30cm型、勾配定規22cm型、三角スケール(15cm及び30cm)、テンプレート(建築士受験者用)、製図用シャープペンシル0.5・0.3各1本、字消板、消しゴム、製図用ブラシ、ドラフティングテープ、ケント紙A2版、トレシングペーパー、キャリングケース(A3ノビサイズ)、コンベックス、等 ●模型制作に必要な道具と材料 カッターナイフ、カッティングボード、スチール定規、スチール曲尺、ヒートカッター スチレンボート、両面ケント1mm厚、バルサ、スプレーのり、貼ってはがせるスプレーのり、スチのり、木工ボンド、軟粘着両面テープ、マスキングテープ、等
教科書 Textbook(s)	新しい建築の製図、第2版、「新しい建築の製図」編集委員会編、学芸出版社、ISBN4-7615-2375-1
参考書 Reference(s)	コンパクト建築設計資料集成〈住居〉

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習Ⅰ						
担当教員	吉田 文男						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	低層住宅の単体あるいは集住・集合体について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。一年次に学習した住居の基礎知識あるいは2年前期の「ハウジングデザインCAD実習」で習得するスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し模型などを作る。各々課題について、クラス全員の参加で講習会を行い、自分の考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。
授業計画 Syllabus	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(平屋)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作その1 第8回 : 実習課題2 模型制作その2 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション及び講習会
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	建築設計の初めての実践的な授業であり建築製図の基礎を学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し締切厳守で授業に望んで下さい。 また、課題制作上必要なものとして以下の道具を購入する必要があります。大学での実習では教室備え付けの備品がある程度利用できますが、自宅での制作や他のハウジング系実習授業、更には卒業後の二級建築士受験の際にも必要です。詳細については授業中に説明します。 ●製図に必要な道具 平行定規簡易式A2版orT定規、三角定規30cm型、勾配定規22cm型、三角スケール(15cm及び30cm)、テンプレート(建築士受験者用)、製図用シャープペンシル0.5・0.3各1本、字消板、消しゴム、製図用ブラシ、ドラフティングテープ、ケント紙A2版、トレンジングペーパー、キャリングケース(A3ノビサイズ)、コンベックス、等 ●模型制作に必要な道具と材料 カッターナイフ、カッティングボード、スチール定規、スチール曲尺、ヒートカッター、スチレンボード、両面ケント紙1mm厚、バルサ、スプレーのり、貼ってはがせるスプレーのり、スチのり、木工ボンド、軟粘着テープ、マスキングテープ、等
教科書 Textbook(s)	新しい建築の製図、第2版、「新しい建築の製図」編集委員会編、学芸出版社、ISBN4-7615-2375-1
参考書 Reference(s)	コンパクト建築設計資料集成(住居)

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習II						
担当教員	黒田 達雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	中高層住宅の単体あるいは集住・集合体について、2課題程度敷地を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計を行う。ハウジング実習Iなどで学習した知識やスキルも使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り、自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し、共同で全体模型などを作る。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント説明 2. 課題の現地敷地状況調査 3. 同上調査結果の整理と計画づくりに活かせる特性の抽出 4. 全体計画のコンセプトと配置計画（ゾーニングとネットワーク）の説明（パワーポイントによる） 5. 配置計画のブロックプラン作成と個々の学生に対する個別チェック・指導 6. 同上の修正と全体イメージ・コンセプトづくりと各ブロック（3～5棟）の平面計画作成 7. 同上作成作業 8. 同上作成作業 9. 立面・断面で何を表現するかのポイント説明と作成作業 10. 同上作成作業 11. 全体のコンセプトの整理と個別チェック・指導 12. 全体模型作製 13. 同上模型作製とプレゼン用資料作成 14. 同上プレゼン内容の個別チェック・指導による修正 15. 全員によるプレゼンと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントやレジメを使って、事例紹介や設計の基本を講義できるだけマンツーマン形式でコンセプトづくりから議論する
評価方法 Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況と授業態度（30%）（欠席は減点対象） ・調査分析力、コンセプト、構想力（20%） ・提出物・レポート、設計能力（30%） ・作図や表現力（10%） ・プレゼン力・ディスカッション参加（10%） ・小テスト、期末テスト共に無し（0%）
履修上の注意 Requirements and policy	想像（イメージ）し創造（クリエート）することの喜びを味わわせたい。その意欲は、質の高い魅力的な建築を常日頃から国内外で体験し、感動することから生まれる。そのためには、住宅に限らず優れた建築や街並みの事例を学外見学・研修として学ぶ（ただし、交通費等は自己負担です）。
教科書 Textbook(s)	特になし、適宜必要なレジメ・プリントを配布
参考書 Reference(s)	特になし、必要に応じ提示することもある
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習II						
担当教員	松村 正希						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	中高層住宅の単体あるいは集住・集合体について、企画から基本設計及び一部の詳細設計を行なう。ハウジングデザイン演習Iなどで学習した知識やスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み、人が住むという本来の意味を考えるため、孤独死やひきこもり、こどもの環境、家族関係、認知症や障害者等社会的弱者と住環境との関係を考察し、CADにより平面、立面、断面の一般図を作成し、伝えたい空間をスケッチやパースで表現し全体模型などを作る。各々の課題についてクラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えた事を他の人たちに伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。
授業計画 Syllabus	第1回 ゼミナールで課題の設定を行う。 第2回 課題の設定とその学習及び整理 第3回 課題の設定とその学習及び整理 第4回 課題のプランニング 第5回 課題のプランニング 第6回 課題のプランニング 第7回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第8回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第9回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第10回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第11回 模型の作成 第12回 模型の作成 第13回 模型の作成 第14回 課題のまとめ及びプレゼンテーションの準備 第15回 全員のプレゼンテーション
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義はビデオ等で基本的な部分にとどめ、学生同士の考察を重点におき演習を中心にして進めて行きたい。学生が暮らしているそれぞれの社会にどれだけ目を向けているかを考察したい。
評価方法 Evaluation	授業の出席および授業中の態度30% 設定した課題の小論文25% 課題のプランニング及び作図、スケッチ、パース、模型の作成25% 課題のまとめ及びプレゼンテーション15% その他5%
履修上の注意 Requirements and policy	特に授業の出席および授業中の態度を重要視している。
教科書 Textbook(s)	特になし。 必要と思われる場合は参考程度で紹介はする。
参考書 Reference(s)	特になし。 必要と思われる場合は参考程度で紹介はする。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習III						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	今後、住宅は新規建設ではなく、既存のものをどのように再生するかが大きなテーマであり、実社会でのハウジング関係の仕事も、そのように動いている。本実習では、「住宅の再生」をテーマに、下記の3課題について、その意義や背景について説明の後、各自、設計説明書と基本設計図としてまとめる。課題は、①2DKマンション住戸のリフォーム、②団地の一街区をリニューアルする、③自宅をグループホームにリフォームする、である。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス、実習のテーマ設定と進め方 第2回 「住宅の再生」、「団地再生」について基礎的講義 第3回 団地現地調査・・・浜甲子園団地 第4回 2DK住宅設計条件提示、2DKの現状を書く、 第5回 2DKをどうリフォームするか内容提案する 第6回 リフォーム2DKの基本平面図、断面図 第7回 街区を読む・・・リニューアルを考える条件の整理 第8回 街区のリニューアルを提案する 第9回 自宅の現況をCADで図面化する、条件を提示する 第10回 自分の自宅どのように和風にリフォームするか。 第11回 グループホームなど関連施設の見学する、条件を提示する 第12回 グループホームの必要とされる機能、面積などを整理する 第13回 自宅のグループホームへのリフォームのエスキース、構想を練る 第14回 リフォームによるグループホームの基本図面作成 第15回 全体講評会
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式。 お互い、皆での討論を大事にする
評価方法 Evaluation	平常点：30%、課題提出物：70%
履修上の注意 Requirements and policy	団地や高齢者福祉関連施設等の見学を行なうことがあるが、交通費などは自己負担。
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業中に随時紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習Ⅳ						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	一定の広がりを持つ町の計画、アーバンデザインである。120m四方ほどの街区を単位として住宅・商店・公園・公共施設を配置する。景観のデザインや部分的なストリートファニチャーのデザインなども行う。						
授業計画 Syllabus	<p>受講者の話しあいによって、授業の進行のしかたを変えることがある。したがって、以下は例示である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1課題とする街区の提示 2街区の特徴 3事例研究 1 4事例研究 2 5事例収集の発表 6企画 7基本構想 1 8基本構想 2 9基本設計 1 10基本設計 2 11中心施設の設計 12平面図のしあげ 13立面図のしあげ 14断面図のしあげ 15講評 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	ひとつの課題に対する演習。見学で学外に出ることもある。						
評価方法 Evaluation	100%、提出した作品による						
履修上の注意 Requirements and policy	都市に興味をもっていること						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論I						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>現代都市住宅とは何か、その物的空間構成、企画・計画・設計、構造や設備あるいは管理、建替など広範囲にわたり、基礎知識の取得と現代の課題について理解することを目的とする。</p> <p>また、ハウジングデザインに関する内容のうち、現代都市住宅（戸建から超高層集合住宅）までを対象に、様々な現代的課題を考えながら、企画・計画・設計についての基礎知識を中心に講義する。具体的テーマとして、空間構成（インテリア、住戸平面、住宅の集合、屋外空間）、住宅計画プロセス（レディメイド、ユーザー参加の計画など）、家族生活と住宅計画（高齢者、ハンディキャップ者の計画）、環境共生（高耐久、環境制御）、防災・耐震、集合住宅のあり方、などである。これらの学習を通じて、現代日本都市住宅における計画・設計の概要を習得する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第I部 プリントを使つての講義</p> <p>第1回 ガイダンス、講義の狙い</p> <p>第2回 都市住宅の分類・集合住宅とは何か</p> <p>第3回 集合住宅の空間構成1（団地）</p> <p>第4回 集合住宅の空間構成2（住棟）</p> <p>第5回 集合住宅の空間構成3（住戸）</p> <p>第6回 設計プロセス1（全体のながれ）</p> <p>第7回 設計プロセス2（企画、計画、設計）、小テスト</p> <p>第8回 集合住宅デザイン1（家族の変容と設計）</p> <p>第9回 集合住宅デザイン2（高齢者居住）</p> <p>第10回 集合住宅デザイン3（団地再生・環境共生）</p> <p>第11回 集合住宅デザイン4（都心居住）</p> <p>第12回 集合住宅デザイン5（防災・耐震）小テスト</p> <p>第II部 学生からの発表</p> <p>第13回 個人発表（1）趣旨説明</p> <p>第14回 個人発表（2）各自からの調査結果の報告</p> <p>第15回 個人発表（3）ディベート・講評</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義を聞くだけでなく、発表など双方向授業もとり入れる						
評価方法 Evaluation	平常点：30%、テスト+レポート：70%						
履修上の注意 Requirements and policy	条件が整えば、現地見学もある。その場合の交通費などは自己負担。						
教科書 Textbook(s)	プリント配布						
参考書 Reference(s)	随時紹介する						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論II						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住宅・建築単体よりも広い範囲の空間のデザイン論である。 日本や世界にはどんな町、居住地があるのかからあらためて考え、都市デザインの理論を学ぶ。 とりわけK.リンチとC.アレグザンダーのデザイン論は詳しく学ぶ。よい空間の言語化がテーマである。 演習的な内容を含む。 ハウジングデザイン実習Ⅳの前段となる。
授業計画 Syllabus	1 近年のアーバンデザイン論 2 リンチのアーバンデザイン論 3 都市のわかりやすさ 4 小課題1の案 5 小課題1の完成 6 アレグザンダーのアーバンデザイン論 7 「7000人のコミュニティ」 8 「人前の居眠り」 9 「どこにも老人」 10 「四階建ての制限」 11小課題2の案 12小課題2の完成 13欧米のアーバンデザイン最前線 14小課題3の案 15小課題3の完成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習的な内容を含む講義。いくつかの空間表現の課題と、20枚ほどの写真の分析をパワーポイントでしあげる場合によっては学外に出ることがある
評価方法 Evaluation	授業中に作成するいくつかの小課題により、100%の評価を行う 授業への参加の積極性を加味する場合もある
履修上の注意 Requirements and policy	都市のあり方や景観に興味をもっていること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは。 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神間に生きた建築家とその作品 5. 阪神間のサロン文化 6. 阪神間の食文化 7. ホテル文化のさきがけ 8. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 9. 阪神間のデザイナーたち 10. 谷崎潤一郎と阪神間 11. 阪神間の美術家たち 12. 阪神間の音楽家や写真家たち 13. 宝塚歌劇レビューのはじまり 14. 阪神間のスポーツ 15. 阪神間の娯楽
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：レポート100%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントを配布
参考書 Reference(s)	○参考書：毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ヒトとデザイン						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「人間科学としてのデザイン」 私たちの身の回りにはほとんどのものが「デザイン」されたものです。言い換えれば私たちは様々な「デザイン」で構成された環境の中に生きていることとなります。それらは色彩や形状などの造形的要因とともに、実用的用途を満たすための機能を有するものです。そのため、デザインの世界はファッションやハウジング以外にもいくつかの領域に専門分化しています。一方で「デザイン」という言葉は広い意味をもち、従来に無い新たな分野も登場しています。この授業ではこうした現状を概観しながら「デザイン」に関する基本的な理解を目的とします。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1: オリエンテーション —デザイン、ライフスタイル、イメージ—</p> <p>2: デザインと人間科学</p> <p>3: 現代デザインの最前線 —ケータイ・デザイン—</p> <p>4: デザインとアート (1) —応用美術としてのデザイン—</p> <p>5: デザインとアート (2) —デザイナーとアーティスト—</p> <p>6: デザインとテクノロジー (1) —産業革命とデザイン—</p> <p>7: デザインとテクノロジー (2) —人間工学から感性工学まで—</p> <p>8: デザインとテクノロジー (3) —コンピュータとメディア・テクノロジー—</p> <p>9: デザイン領域の専門化と学際性</p> <p>10: デザイン概念の拡がり</p> <p>11: 「ヒト」という生物</p> <p>12: 「ヒト」の文明化</p> <p>13: 「ヒト」と機械・人工物環境</p> <p>14: 「ヒト」にとって必要なデザイン</p> <p>15: まとめとテスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	テスト、レポート、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が必要です。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。授業中に紹介します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ビジネスリサーチ演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>新商品の企画及び提案のためには、消費者が求めている商品に関して正しく分析できる力が必要である。そのためには消費者の商品を購入する購買行動に関する調査を正しく行う知識と、調査の結果を正しく理解できる知識得ることが欠かせない。</p> <p>ビジネスリサーチ演習では、消費者調査の方法を理解し、調査データのまとめと調査の結果の考察のための統計処理の知識を学習する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1回 1. 消費者調査の意義</p> <p>1-1 消費者調査とは</p> <p>1-2 消費者調査の特徴</p> <p>2回 2. 消費者調査の留意事項</p> <p>3回 3. 消費者調査の種類と方法</p> <p>3-1 利用目的による分類</p> <p>3-2 情報の種類による分類</p> <p>3-3 量と質による分類</p> <p>3-4 情報の収集による分類</p> <p>3-5 動機調査</p> <p>4回 4. 消費者調査の実際</p> <p>4-1 消費者調査の手順</p> <p>4-2 調査対象者の選び方</p> <p>4-3 調査票の作成</p> <p>4-4 調査結果の集計の仕方</p> <p>5回 5. 消費者調査法の演習</p> <p>5.1 演習 1 (質問紙調査法)</p> <p>6回 6. 演習 2 (衣料の使用実態調査)</p> <p>7回 7. 演習3 (調査データの集計及び統計処理法)</p> <p>8回 8. 演習4 (SPSS統計ソフトの基礎)</p> <p>9回 9. 演習5 (SPSS統計ソフトの基礎 - 単純集計①)</p> <p>10回 10. 演習6 (SPSS統計ソフトの基礎 - 単純集計②)</p> <p>11回 11. 演習7 (SPSS統計ソフトの基礎 - クロス集計①)</p> <p>12回 12. 演習8 (SPSS統計ソフトの基礎 - クロス集計②)</p> <p>13回 13. 演習9 (SPSS統計ソフトの基礎 - クロス集計③)</p> <p>14回 14. 演習10 (調査結果のまとめ)</p> <p>15回 まとめ結果の発表</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	出席50%, レポート10%, 授業参加姿勢10%, 発表20%
履修上の注意 Requirements and policy	5回以上の出席がないと受講資格なし
教科書 Textbook(s)	新版 消費者調査法 社団法人 日本衣料管理協会 平成16年

参考書 Reference(s)	プリント資料
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	松下 温子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>流行の変化が速く、多様なデザインが要求されるファッション業界では、生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されている。実習Iでは、衣服の型紙を作成するパターンメイキング、サイズ展開を行うグレーディング、パターンを布地に配置するマーキングのプロセスを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の修得と活用の有効性を考える。簡単な仮想縫製（着装シミュレーション）も行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 序 ファッション産業でのCADの活用 使用機器・ソフトの紹介と『Pattern Magic』の操作練習 第2回 ブラウスのパターン製作 身頃 第3回 ブラウスのパターン製作 袖・衿 第4回 ブラウスのパターン製作 仕上げ・チェック『仮想縫製』 第5回 工業用パターンの作成 縫代付け 実寸大パターンの入出力（スキャナ・プロッタ操作） 第6回 グレーディング 第7回 マーキング 第8回 デザイン展開 身頃・衿・袖 第9回 デザイン展開 スカート・パンツ 第10回 パンツの製図 第11回 パンツの製図 仕上げ・仮想縫製 第12回 仮想縫製応用・自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magic で型紙作成 第14回 自由作品>i-Designer で仮想縫製 第15回 レポート作成・提出、講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	コンピュータを使用しての演習形式
評価方法 Evaluation	毎回の作品とレポート、出席状況と授業態度を総合して評価する (作品50% レポート50%)
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席がないと受講資格を失う(遅刻厳禁) データ保存のため各自でUSBメモリを購入し毎回持参する(他教科との兼用可)
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	ファッションCAD実習IIを履修する人は、この科目を履修すること

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	松下 温子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>流行の変化が速く、多様なデザインが要求されるファッション業界では、生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されている。実習Iでは、衣服の型紙を作成するパターンメイキング、サイズ展開を行うグレーディング、パターンを布地に配置するマーキングのプロセスを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の修得と活用の有効性を考える。簡単な仮想縫製（着装シミュレーション）も行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 序 ファッション産業でのCADの活用 使用機器・ソフトの紹介と『Pattern Magic』の操作練習 第2回 ブラウスのパターン製作 身頃 第3回 ブラウスのパターン製作 袖・衿 第4回 ブラウスのパターン製作 仕上げ・チェック『仮想縫製』 第5回 工業用パターンの作成 縫代付け 実寸大パターンの入出力（スキャナ・プロッタ操作） 第6回 グレーディング 第7回 マーキング 第8回 デザイン展開 身頃・衿・袖 第9回 デザイン展開 スカート・パンツ 第10回 パンツの製図 第11回 パンツの製図 仕上げ・仮想縫製 第12回 仮想縫製応用・自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magic で型紙作成 第14回 自由作品>i-Designer で仮想縫製 第15回 レポート作成・提出、講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	コンピュータを使用しての演習形式
評価方法 Evaluation	毎回の作品とレポート、出席状況と授業態度を総合して評価する (作品50% レポート50%)
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席がないと受講資格を失う(遅刻厳禁) データ保存のため各自でUSBメモリを購入し毎回持参する(他教科との兼用可)
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	ファッションCAD実習IIを履修する人は、この科目を履修すること

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習II						
担当教員	松下 温子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>実習Iで修得したパターンメイキング技術と簡単なバーチャルガーメント（仮想衣服）の技術を基に、実習IIでは、難度なデザイン展開をCADの利用で迅速かつ確実に出来る力を養う。また仮想衣服としてパターン・ボディ・テキスタイルのデータからシルエットを生成し、コンピュータ画面上であらゆる方向からの着装状態、柄のマッチング、ゆとりや伸び、生地、色の検討や、顔の合成・重ね着の設定などファッションコーディネートを実験する。その他CG技術による生地柄の作成など、ファッション産業におけるCADに関する知識を得る。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション ファッション産業のCADの実状、CAD操作 第2回 生地柄作成>ストライプ・水玉・変形 第3回 生地柄作成>フリー描画、デザイン画・仮想衣服への利用 第4回 デザイン展開・応用 第5回 仮想縫製・応用 第6回 仮想衣服での補正・デザイン線の追加と平面製図への適用 第7回 仮想衣服>パターンと体型・生地変化によるゆとり・伸び・シルエット変化 第8回 仮想衣服>柄のマッチング、着装効果 第9回 ファッションコーディネート・着装シミュレーション 第10回 CGマッピング 第11回 その他アパレルCADシステムの有効活用 第12回 自由制作のテーマ選び・レポートの説明と制作準備 第13回 自由制作>Pattern Magic、CG Magic での企画書・生地柄・型紙作成 第14回 自由制作>i-Designer での着装シミュレーション 第15回 レポート作成・提出、講評</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	コンピュータを使用した演習形式						
評価方法 Evaluation	作品とレポート、出席状況と授業態度を総合して評価する (作品50% レポート50%)						
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席がないと受講資格を失う(遅刻厳禁) データ保存のため各自でUSBメモリを購入し毎回持参する(他教科との兼用可)						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks	原則として、ファッションCAD実習Iを履修していること						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションイメージ論						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代では実際に販売、着用される商品としての衣服以上に、雑誌・新聞、テレビ・映画などのメディア表現によるイメージとしてのファッションの重要性が高まっている。特に世界中のメディアが注目するパリコレをはじめとするコレクション映像はほとんどの聴衆にとっては非現実のイメージに過ぎない。ファッションのこうした側面を、タレント、ミュージシャン、映画スターなどのファッション・リーダー、スーパーモデルの果たす役割、ファッション写真や現代美術に表現されたファッションの意味などの視点から探る。
授業計画 Syllabus	
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席回数、授業中の積極性、レポートなどを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	可能な限り演習形式に近い形で進めたいので、与えられたテーマに基づき自発的に調査し発表できることを求めます。また自身の関心や好みを明確な言葉で伝えられるよう望みます。
教科書 Textbook(s)	特に無し。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションカルチャー論						
担当教員	平芳 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	身体を覆う衣服は実用品であると同時に装飾品であり、民族固有の服飾文化が形成されてきた。しかし西洋発のファッションのグローバル化に伴い、世界各地の人々の装いは急速に均質化の傾向を見せつつある。このように多大な影響力をもつ現代ファッションの状況を、身体、性、アート、マテリアル、メディア等といったキーワードに基づき多角的な視点から考察することによって、現代ファッションに対する理解を深める。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス（授業の目的、概要、進行に関する説明） 2) ファッションのグローバル化 3) ファッションとメディア(1)：流行はいかにして作られるか 4) ファッションとメディア(2)：ファッション雑誌について 5) ファッションとメディア(3)：ファッション雑誌について 6) ファッションと美術館：作品としてのファッション？ 7) ファッションとアートの間 8) ファッションと身体(1)：素材の成形加工 9) ファッションと身体(2)：からだの成形加工 10) ファッションと身体(3)：失われた皮膚 11) ファッションとジェンダー：男性服と女性服 12) ファッションとジェンダー：裁断と性差 13) ファッション、花柄、香り 14) ファッションはなぜ女性的と見なされるのか 15) まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	授業中小レポート（50%）と期末テスト（50%）を実施する。 欠席は減点とする。
履修上の注意 Requirements and policy	私語には厳しく対処する。
教科書 Textbook(s)	適宜、資料を配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に指示する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション史						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッション・システム成立以降のファッションの歴史を、各年代の流行のスタイルの変遷にとどまらず、モダンアートや他のデザイン領域の歴史、大量生産・消費社会の成立、女性の社会的進出、若者文化の台頭など社会経済的発展とも関連付けて概観する。その際、パリにおけるオートクチュール産業の形成からプレタポルテ、既製服産業としての拡がり、シャネル、ディオールをはじめとするスター・デザイナーの役割、ナイロン、レーヨンなどの新素材の開発、理想的な身体美の変化といった点にも留意する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1. オリエンテーション、古代・中世の服飾： ファッション史で何を学ぶのか。15回の授業について。壁画、彫刻、挿絵を手がかりに古代・中世の服飾形態を読み取る。</p> <p>2. 16世紀の服飾： 肖像画をもとに16世紀の衣服形態と装飾にふれる。</p> <p>3. 17世紀の服飾： ヨーロッパにおいてモードの中心となったフランスと服飾にみられるバロックの美意識について知る。</p> <p>4. 18世紀の服飾(1)： 優美なロココの衣服形態と美の価値観にふれる。</p> <p>5. 18世紀の服飾②： ロココから装飾を拒んだ新古典主義への変化について時代背景等を考慮しながら読み取り、衣装形態を把握する。</p> <p>6. 19世紀の服飾(1)： 19世紀紳士服の形態について知り、ダンディズムの思考を読み取る。ロマン主義、ペチコートで膨らんだスカート、クリノリン・スタイル、バツル・スタイルへと形態変化した女性の服飾について知る。</p> <p>7. 19世紀の服飾(2)： モード産業の基盤、ウォルトによりパリ・オートクチュールの基盤が築かれたことについて学ぶ。また、女性解放運動をもとにした改良服の取り組み、ジャポニズム、アール・ヌーヴォーを背景とした服飾について知る。</p> <p>8. 19世紀後半から20世紀前半の服飾： 他分野(デザイン運動)にみる新しい衣服の芽生え、他分野とファッションの関係性について知る。</p> <p>9. 20世紀前半の服飾(1)： ファッション分野におけるコルセットをつけない衣服の取り組みについて。ポール・ポワレ、マリアノ・フォルチュニー、マドレーヌ・ヴィオネをはじめとするモードの取り組みについて知る。</p> <p>10. 20世紀前半の衣服(2)： マドレーヌ・ヴィオネのドレス形態、思考とその周辺について知る。</p> <p>11. 20世紀前半の服飾(3)： 女性の社会進出と現代服、世界大戦とファッションについて見ていく。</p> <p>12. 20世紀後半の服飾(1)： 戦後のファッション、既製服(プレタポルテ)産業の発展について。シャネル、ディオールをはじめとするスター・デザイナーの役割を説明するとともにクレア・マッカーデルとアメリカ既製服を考える。</p> <p>13. 20世紀後半の服飾(2)： 三宅一生、山本耀司、川久保玲をはじめとする日本人デザイナーによる新しい価値観とパリ・モードについて。</p> <p>14. 20世紀後半から現代へ： ベルギー、オランダをはじめとするモード学校とデザイナーの活動について知り、芸術・アートとファッションの関係性について読み取る。一方、ユニバーサル・ファッション、エコとファッションの関わりなどファッションの多方面への広がりとその可能性について考える。</p> <p>15. 授業のまとめ、試験：</p>

授業計画 Syllabus	半期の内容を見直し、復習する。
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	レポート(70%)、出席状況(30%)を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席。レポート課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	深井晃子編著 『世界服飾史』 美術出版社
参考書 Reference(s)	菅原珠子・佐々井啓著 『西洋服飾史』 朝倉書店 青木英夫編著 『服装史』 酒井書店・育英堂 文化服装学院編 『文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩ 20世紀ファッション』 文化出版局
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン概論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：色・形・素材などからデザイン基礎を学ぶ</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>ファッション領域の科目全体を概観するための必修科目である。他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史の意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、ファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、目的、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：ファッションデザインとは何か 2. 服飾デザイン：ファッションとは何か 3. ファッションデザインと色彩の基礎 4. 色の表わし方 5. 色の見え方とイメージ 6. 配色の基本 7. 色彩計画と中間試験 8. ファッションデザインと造形要素：点・線・形など 9. 服飾の形体：面と立体 10. 流行とシルエット 11. 服飾の歴史：和服、洋服の形、色などの歴史 12. 秩序の理論：統一と変化、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 13. ファッションデザインと文様・素材感 14. 衣服の基本構造と構造線、服飾線 15. ファッションの美的統一、最後に試験。 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める						
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験70%、提出物30%						
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。						
教科書 Textbook(s)	○教科書：石山彰著『服飾デザインと色彩』（日本色研事業株式会社） 大関徹、田原二美、高田葉子著『ファッション&ビューティーの色彩』（日本色研事業株式会社）						
参考書 Reference(s)	○参考書：授業中に紹介。						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッションデザイン実習I・II・IIIを通して、コンセプトの設定、表現、展開、実現というファッションデザインの基礎となるプロセスと衣服構成の理解、制作技法の習得を目標とする。この実習では、衣服制作に必要な用具の使用法や素材の扱い方といった基本知識を学ばせ、各自がコンセプト設定を経たのち、タイトスカートを中心とするボタムのデザイン、平面パターン（平面製図法）とドレーピング（立体裁断法）によるパターンメイキング、トワルチェック、縫製の実習を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1. オリエンテーション「方針・進め方の説明、採寸、製図」： セミタイトスカート（第2回目～第7回目）とブラウス（第8回目～第15回目）の授業内容について説明する。マルチン計測法に必要な項目について採寸し、各自の採寸表を作成する。平面製図法を用い、各自の体型にあったセミタイトスカートを製図する。</p> <p>2. セミタイトスカート「製図、仮縫い・補正、まつり縫い」： 製図を完成させ、型紙を作る。1/5大の製図を提出する。トワルでの仮縫い・補正の説明をする。まつり縫いの説明をする。</p> <p>3. セミタイトスカート「裁断・印付け」： 布の地直しを行う。型紙どおりに表スカートと裏スカートを裁断する。表スカートに印を付ける（切りじつけ）。</p> <p>4. セミタイトスカート「縫製①」： 表スカートのウエストダーツを縫い、表前スカートと表後スカートを縫い合わせ組み立てる。裾にロックミシンをかけてまつる。</p> <p>5. セミタイトスカート「縫製②」： 左脇あきにはファスナーをつける。裏スカートを縫製する。</p> <p>6. セミタイトスカート「縫製③」： 表スカートと裏スカートを合わせる。ベルトを作り、ウエスト部分につける。</p> <p>7. セミタイトスカート「仕上げ」： ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。</p> <p>8. ブラウス「製図①」： 各自の寸法で上半身原型を製図する。</p> <p>9. ブラウス「製図②」： 上半身原型製図を完成させ、型紙を作る。ブラウス用スローパーを作る。</p> <p>10. ブラウス「製図③」： 体型にあわせてブラウスを製図し、型紙を作る。1/5大の製図を提出する。</p> <p>11. ブラウス「裁断」： 布の地直しをする。型紙どおりに布を裁断する。</p> <p>12. ブラウス「縫製①・身頃」： 縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。 ブラウスの身頃を縫い合わせ、裾を始末する。身頃に見返しをつける。</p> <p>13. ブラウス「縫製②・見返し」： 見返しを作り、身頃と縫い合わせる。</p> <p>14. ブラウス「縫製③・袖付け」： 袖を作り、身頃につける。縫代の始末をする。</p> <p>15. まとめ、ブラウス「仕上げ」： 上前にボタンホールを作り、ボタンを付ける。アイロンをかけ、仕上げる。</p>

参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品（セミタイトスカート30%・ブラウス30%）、製図（セミタイトスカート15%・ブラウス15%）、部分縫い（10%）で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻を認めない（やむをえない場合は、2/3以上の出席とする）。 作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅰ』 文化出版局 2007年
参考書 Reference(s)	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
備考 Remarks	材料費（布など）、縫製用具の一部は自己負担とする。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：衣服構成の理解、制作技法の習得</p> <p>ファッションデザイン実習I・II・IIIを通して、コンセプトの設定、表現、展開、実現というファッションデザインの基礎となるプロセスと衣服構成の理解、制作技法の習得を目標とする。この実習では、衣服制作に必要な用具の使用方法や素材の扱い方といった基本知識を学ばせ、各自がコンセプト設定を経たのち、タイトスカートを中心とするボトムのデザイン、平面パターン（平面製図法）とドレーピング（立体的裁断法）によるパターンメイキング、トワルチェック、縫製の実習を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」：タイトスカート(第2回目～第7回目)とシャツブラウス(第8回目～第15回目)の授業内容について説明する。タイトスカートはマルチン計測法で採寸し、各自の採寸表を作成する。タイトスカートのデザイン・製図法について説明する。 2. タイトスカート「製図」：平面製図法を用い、各自の体型にあったタイトスカートを製図する。1/5大の製図を提出する。 3. タイトスカート「仮縫い・補正」：シーチングでタイトスカートを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。 4. タイトスカート「裁断・印付け」：布の地直しを行う。スカートの型紙どおりに布と裏地を裁断する。 5. タイトスカート「縫製①」：縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ウエストダーツを縫い、前スカートと後スカートを縫い合わせ組み立てる。裾にロックミシンをかけ、ファスナーをつける。 6. タイトスカート「縫製②」：裏地を縫製し、タイトスカートと裏地を合わせる。ベルトを作り、ウエスト部分につける。 7. タイトスカート「仕上げ」：ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。 8. シャツブラウス「製図」：平面製図法を用い、各自の体型にあわせてシャツブラウスを製図する。1/5大の製図を提出する。 9. シャツブラウス「仮縫い」：シーチングでシャツブラウスの仮縫いをする。 10. シャツブラウス「補正」：シャツブラウスの仮縫いモデルを各自の体型にあわせて補正する。 11. シャツブラウス「裁断」：布の地直しをする。シャツブラウスの型紙どおりに布を裁断する。 12. シャツブラウス「縫製①・身頃」：縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。シャツブラウスの身頃を縫い合わせ、裾を始末する。身頃に見返しをつける。 13. シャツブラウス「縫製②・衿付け」：衿を作り、身頃と縫い合わせる。袖作りの準備をする。 14. シャツブラウス「縫製③・袖付け」：袖を作り、身頃に袖をつける。縫代の始末をする。 15. まとめ、シャツブラウス「仕上げ」：上前にボタンホールを作り、ボタン付けする。アイロンをかけ、仕上げる。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし（やむをえない場合は、2/3以上の出席）。作品を必ず提出すること。

教科書 Textbook (s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編 I』 文化出版局 2007年 第二版 ISBN978-4-579-10859-6
参考書 Reference (s)	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
備考 Remarks	工場見学、市場調査等を含む。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ワンピースの各種デザイン、パターンメイキング、縫製の実習から、デザインのコンセプトやイメージ、ディテールを衣服そのものへの的確に表現する方法と基本的な縫製技術の習得をめざす。とくに、現代において求められている多岐にわたるデザインへの対応能力を養成するため、平面パターン（平面製図法）とドレーピング（立体裁断法）の実習を行うことから、さまざまなデザインや素材に適したテクニックの使い分けを身につけ、また、衿や袖などの部分的なパターンを理解する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」、ワンピース「製図①」： ワンピース（第2回目～第11回目）とパンタロン（第12回目～第15回目）の授業内容について説明する。各自の体型にあったワンピースを製図し、展開する。</p> <p>2. ワンピース「製図②」「裁断・印付け」： 袖を製図する。1/5大の製図を提出する。布の地直しをし、ワンピースの型紙どおりに布を裁断する。</p> <p>3. ワンピース「仮縫い・補正」： タイトスカートを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。</p> <p>4. ワンピース「縫製①見頃」： 縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ワンピースを縫い合わせ組み立てる。</p> <p>5. ワンピース「縫製②見頃」： あき部分にファスナーを付ける。衿ぐりを始末する。</p> <p>6. ワンピース「縫製③・袖」： 袖を作り、ワンピースの身頃に袖をつける。袖の縫代にロックミシンをかける。</p> <p>7. ワンピース「仕上げ」： ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。</p> <p>8. パンタロン「製図」： 各自の体型にあったパンタロンを製図する。1/5大の製図を提出する。</p> <p>9. パンタロン「裁断」： 布の地直しを行う。パンタロンの型紙どおりに布を裁断する。</p> <p>10. パンタロン「縫製」： 縫代にロックミシンをかけ、ダーツを縫う。前後パンタロンを左右それぞれ組み立て、股上を縫い合わせる。ファスナーをつける。</p> <p>11. パンタロン「仕上げ」： ベルトを作り、ウエスト部分につける。ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。</p> <p>12. 立体裁断「身頃原型①」： ボディにテープをはる（前中心、後中心、脇、バスト、ウエスト、ヒップ）。身頃原型を立体裁断で作製する。</p> <p>13. 立体裁断「身頃原型②」： ウエストダーツを作り、身頃原型のライン修正を行う。身頃原型の型紙をつくる。</p> <p>14. 立体裁断「セミタイトスカート」： セミタイトスカートを立体裁断で作製する。前スカート、後スカートを作製し、印をつける。ラインを修正し、型紙をつくる。</p> <p>15. 講評・まとめ： 立体裁断作品を講評し、授業全体のまとめをする。</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品(ワンピース23%・パンタロン23%・立体裁断24%)、製図(ワンピース15%・パンタロン15%)で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし(やむをえない場合は、2/3以上の出席)。 作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅰ』 文化出版局 2007年
参考書 Reference(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
備考 Remarks	材料費(布など)、縫製用具の一部は自己負担とする。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ワンピースの各種デザイン、パターンメイキング、縫製の実習から、デザインのコンセプトやイメージ、ディテールを衣服そのものへの確に表現する方法と基本的な縫製技術の習得をめざす。とくに、現代において求められている多岐にわたるデザインへの対応能力を養成するため、平面パターン（平面製図法）とドレーピング（立体裁断法）の実習を行うことから、さまざまなデザインや素材に適したテクニックの使い分けを身につけ、また、衿や袖などの部分的なパターンを理解する。
授業計画 Syllabus	<p>1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」、ワンピース「製図①」： ワンピース(第2回目～第11回目)とパンタロン(第12回目～第15回目)の授業内容について説明する。各自の体型にあったワンピースを製図し、展開する。</p> <p>2. ワンピース「製図②」「裁断・印付け」： 袖を製図する。1/5大の製図を提出する。布の地直しをし、ワンピースの型紙どおりに布を裁断する。</p> <p>3. ワンピース「仮縫い・補正」： タイトスカートを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。</p> <p>4. ワンピース「縫製①見頃」： 縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ワンピースを縫い合わせ組み立てる。</p> <p>5. ワンピース「縫製②見頃」： あき部分にファスナーを付ける。衿ぐりを始末する。</p> <p>6. ワンピース「縫製③・袖」： 袖を作り、ワンピースの身頃に袖をつける。袖の縫代にロックミシンをかける。</p> <p>7. ワンピース「仕上げ」： ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。</p> <p>8. パンタロン「製図」： 各自の体型にあったパンタロンを製図する。1/5大の製図を提出する。</p> <p>9. パンタロン「裁断」： 布の地直しを行う。パンタロンの型紙どおりに布を裁断する。</p> <p>10. パンタロン「縫製」： 縫代にロックミシンをかけ、ダーツを縫う。前後パンタロンを左右それぞれ組み立て、股上を縫い合わせる。ファスナーをつける。</p> <p>11. パンタロン「仕上げ」： ベルトを作り、ウエスト部分につける。ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。</p> <p>12. 立体裁断「身頃原型①」： ボディにテープをはる(前中心、後中心、脇、バスト、ウエスト、ヒップ)。身頃原型を立体裁断で作製する。</p> <p>13. 立体裁断「身頃原型②」： ウエストダーツを作り、身頃原型のライン修正を行う。身頃原型の型紙をつくる。</p> <p>14. 立体裁断「セミタイトスカート」： セミタイトスカートを立体裁断で作製する。前スカート、後スカートを作製し、印をつける。ラインを修正し、型紙をつくる。</p> <p>15. 講評・まとめ： 立体裁断作品を講評し、授業全体のまとめをする。</p>

参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品(ワンピース23%・パンタロン23%・立体裁断24%)、製図(ワンピース15%・パンタロン15%)で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし(やむをえない場合は、2/3以上の出席)。 作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅰ』 文化出版局 2007年
参考書 Reference(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
備考 Remarks	材料費(布など)、縫製用具の一部は自己負担とする。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習III						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この実習では、商品としての衣服とコンセプトとのバランスを考慮したジャケットのデザイン、パターンメイキング、縫製技術の習得を目的として、オートクチュールとプレタポルテ、それぞれの衣服生産工程とそれらの差異についての理解を促し、平面パターン（平面製図法）とプレタポルテ向けの縫製技術を用いたジャケットの制作を行う。最終的に、自由作品制作を課題とし、ファッションデザイン実習を総括する成果として、効果的なプレゼンテーションを考慮した発表を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」、テーラードジャケット「デザイン」： プレタポルテとオートクチュールの製作方法の違いを説明する。 テーラードジャケットの授業内容について説明する。テーラードジャケットをデザインする。 2. テーラードジャケット「製図①・後身頃」： 身頃原型を基に、後身頃を作図する。 3. テーラードジャケット「製図②・前身頃」： 前身頃を作図する。 4. テーラードジャケット「製図③・衿」： テーラードカラーを作図する。 5. テーラードジャケット「製図④・袖」： 袖を作図する。 6. テーラードジャケット「仮縫い・補正・型紙づくり」： トワルでテーラードジャケットを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。型紙を作る。 テーラードジャケットの1/5製図を提出する。 7. テーラードジャケット「本布裁断」： 布の地直しをする。テーラードジャケットの型紙どおりに布を裁断する。 身頃に接着芯をはり、印つけを行う。アイロンでくせとりをする。 8. テーラードジャケット「縫製①・身頃」： 表身頃をしつけし、ミシンで縫い合わせる。 9. テーラードジャケット「縫製②ポケット」： ポケットを作り、身頃に付ける。 10. テーラードジャケット「縫製④・衿」： 裏衿・表衿を作り、身頃・見返しにそれぞれつける。衿外回りと前端を縫い、衿を完成させる。 11. テーラードジャケット「縫製③・身頃裏地」： 裏身頃を作り、中とじて表身頃と合わせる。 12. テーラードジャケット「縫製⑤・袖作り」： 表袖・裏袖をそれぞれ作り、表裏の袖を中とじする。袖山をぐし縫いし、袖山を形作る。 13. テーラードジャケット「縫製⑥・袖付け」： 表袖を身頃に付け、中とじし、裏袖山をまつる。 14. テーラードジャケット「縫製⑦仕上げ」： まつり縫いし、しつけを取ってアイロンをかける。ボタンホールを作り、ボタンを付ける。 15. テーラードジャケット「評価・まとめ」： テーラードジャケットの仕上がりをチェックする。講評し、評価する。

参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	テーラードジャケット作品（部分縫い10%、サンプル10%、実物50%）、製図(30%)で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習授業のため、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合、2/3以上の出席とする)。 作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	材料費(布など)、縫製用具の一部は自己負担とする。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習III						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この実習では、商品としての衣服とコンセプトとのバランスを考慮したジャケットのデザイン、パターンメイキング、縫製技術の習得を目的として、オートクチュールとプレタポルテ、それぞれの衣服生産工程とそれらの差異についての理解を促し、平面パターン（平面製図法）とプレタポルテ向けの縫製技術を用いたジャケットの制作を行う。最終的に、自由作品制作を課題とし、ファッションデザイン実習を総括する成果として、効果的なプレゼンテーションを考慮した発表を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」、テーラードジャケット「デザイン」： プレタポルテとオートクチュールの製作方法の違いを説明する。 テーラードジャケットの授業内容について説明する。テーラードジャケットをデザインする。 2. テーラードジャケット「製図①・後身頃」： 身頃原型を基に、後身頃を作図する。 3. テーラードジャケット「製図②・前身頃」： 前身頃を作図する。 4. テーラードジャケット「製図③・衿」： テーラードカラーを作図する。 5. テーラードジャケット「製図④・袖」： 袖を作図する。 6. テーラードジャケット「仮縫い・補正・型紙づくり」： トワルでテーラードジャケットを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。型紙を作る。 テーラードジャケットの1/5製図を提出する。 7. テーラードジャケット「本布裁断」： 布の地直しをする。テーラードジャケットの型紙どおりに布を裁断する。 身頃に接着芯をはり、印つけを行う。アイロンでくせとりをする。 8. テーラードジャケット「縫製①・身頃」： 表身頃をしつけし、ミシンで縫い合わせる。 9. テーラードジャケット「縫製②ポケット」： ポケットを作り、身頃に付ける。 10. テーラードジャケット「縫製④・衿」： 裏衿・表衿を作り、身頃・見返しにそれぞれつける。衿外回りと前端を縫い、衿を完成させる。 11. テーラードジャケット「縫製③・身頃裏地」： 裏身頃を作り、中とじて表身頃と合わせる。 12. テーラードジャケット「縫製⑤・袖作り」： 表袖・裏袖をそれぞれ作り、表裏の袖を中とじする。袖山をぐし縫いし、袖山を形作る。 13. テーラードジャケット「縫製⑥・袖付け」： 表袖を身頃に付け、中とじし、裏袖山をまつる。 14. テーラードジャケット「縫製⑦仕上げ」： まつり縫いし、しつけを取ってアイロンをかける。ボタンホールを作り、ボタンを付ける。 15. テーラードジャケット「評価・まとめ」： テーラードジャケットの仕上がりをチェックする。講評し、評価する。

参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	テーラードジャケット作品（部分縫い10%、サンプル10%、実物50%）、製図(30%)で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習授業のため、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合、2/3以上の出席とする)。 作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	材料費(布など)、縫製用具の一部は自己負担とする。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します 2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します 4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分りやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる 9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する 10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデーターを基に結果を分析しマップにまとめる 11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する 12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する 13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する 14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する 15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。
評価方法 Evaluation	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	前半は、グループワーク、後半は個人でレポートや成果物に取り組んで頂きます。

教科書 Textbook (s)	オリジナルテキスト
参考書 Reference (s)	織研新聞、様々なファッション雑誌
備考 Remarks	各自切り抜ける雑誌やカタログを何冊か準備して頂きます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します 2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します 4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分りやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる 9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する 10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデーターを基に結果を分析しマップにまとめる 11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する 12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する 13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する 14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する 15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。
評価方法 Evaluation	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	前半は、グループワーク、後半は個人でレポートや成果物に取り組んで頂きます。

教科書 Textbook (s)	オリジナルテキスト
参考書 Reference (s)	織研新聞、様々なファッション雑誌
備考 Remarks	各自切り抜ける雑誌やカタログを何冊か準備して頂きます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャンダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因に関しても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を企画できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャンダイジング。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディス・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画I ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画II ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画III ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画IV 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画V 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画VI 商品展開計画の作成 どこのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成I コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成II コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成III コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成IV コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成V コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションI プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションII 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）
評価方法 Evaluation	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	パソコンスキルがある方は活かして下さい。

教科書 Textbook (s)	オリジナルテキスト
参考書 Reference (s)	織研新聞、様々なファッション雑誌
備考 Remarks	各自切り抜ける雑誌やカタログを何冊か準備して頂きます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャンダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因に関しても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を企画できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャンダイジング。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディス・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画I ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画II ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画III ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画IV 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画V 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画VI 商品展開計画の作成 どこのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成I コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成II コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成III コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成IV コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成V コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションI プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションII 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）
評価方法 Evaluation	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	パソコンスキルがある方は活かして下さい。

教科書 Textbook (s)	オリジナルテキスト
参考書 Reference (s)	織研新聞、様々なファッション雑誌
備考 Remarks	各自切り抜ける雑誌やカタログを何冊か準備して頂きます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習III						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	演習Ⅲでは演習Ⅰ、Ⅱの商品企画までのプロセスを踏まえ、ファッション商品が店頭でどのように販売されるか、その販売促進の手法であるヴィジュアル・プレゼンテーション (VP)、ヴィジュアルマーチャンダイジング (VMD) の事例を具体的に学ぶ。売り場におけるPOP広告、顧客管理とダイレクトメール、売り場のレイアウトと演出、サイン・ディスプレイ企画と立案などの演習を通じて、商品企画・構成、コンセプトに応じたファッション商品のための魅力的な売り場づくりの手法を習得することを目的とする。コーディネートとスタイリングディスプレイ。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界と日本のファッション市場 構造と仕組みについて解説 2. 日本市場は面白い 最近のファッション市場動向の分析と解説 3. ファッション商品の企画製造から流通販売までのプロセスの解説 4. ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ IPのカラー配列の手法 5. ヴィジュアルプレゼンテーションⅡ PPの商品ディスプレイ・構成 6. ヴィジュアルプレゼンテーションⅢ VPのトータルコーディネーション 7. ヴィジュアルマーチャンダイジングⅠ ヴィジュアルマーチャンダイジングとは 8. ヴィジュアルマーチャンダイジングⅡ 12ヶ月のマーチャンダイジング計画 9. ヴィジュアルマーチャンダイジングⅢ 52週のマーチャンダイジング計画 10. ファッション商品を守る販売促進手法Ⅰ POP、ダイレクトメール、チラシ作成 11. ファッション商品を守る販売促進手法Ⅱ レイアウトとディスプレイ、照明、サイン計画 12. ファッション商品を守る販売促進手法Ⅲ 販売テクニック・個人に似合う色とデザインを知る 13. 売り場作りと販促企画の演習Ⅰ 商品企画・構成、コンセプトに応じた売り場を作る 14. 売り場作りと販促企画の演習Ⅱ マーチャンダイジング計画にそった販促物の作成をする 15. 売り場作りと販促企画の演習Ⅲ 各グループ個人の発表と総合評価、15回のまとめ 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と演習						
評価方法 Evaluation	課題レポートと最終課題作品の評価						
履修上の注意 Requirements and policy	ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ履修者でなくても受講できるが、履修者の方がより理解しやすい内容						
教科書 Textbook(s)	オリジナルテキスト (各項目でプリントして渡します)						
参考書 Reference(s)	各自で事前にご購入して頂く書籍は特になし、随時適切な資料や書籍を紹介します						
備考 Remarks	日本色研事業株式会社 新配色カード199を購入して頂きます レポートや作品(成果物)を作成する用紙その他の材料は、指定しますので各自で購買部などで購入するなどして用意して頂きます (企画書のプリント用紙、着色用カラーペン、ファッション雑誌など)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習III						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	演習Ⅲでは演習Ⅰ、Ⅱの商品企画までのプロセスを踏まえ、ファッション商品が店頭でどのように販売されるか、その販売促進の手法であるヴィジュアル・プレゼンテーション (VP)、ヴィジュアルマーチャンダイジング (VMD) の事例を具体的に学ぶ。売り場におけるPOP広告、顧客管理とダイレクトメール、売り場のレイアウトと演出、サイン・ディスプレイ企画と立案などの演習を通じて、商品企画・構成、コンセプトに応じたファッション商品のための魅力的な売り場づくりの手法を習得することを目的とする。コーディネートとスタイリングディスプレイ。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界と日本のファッション市場 構造と仕組みについて解説 2. 日本市場は面白い 最近のファッション市場動向の分析と解説 3. ファッション商品の企画製造から流通販売までのプロセスの解説 4. ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ IPのカラー配列の手法 5. ヴィジュアルプレゼンテーションⅡ PPの商品ディスプレイ・構成 6. ヴィジュアルプレゼンテーションⅢ VPのトータルコーディネーション 7. ヴィジュアルマーチャンダイジングⅠ ヴィジュアルマーチャンダイジングとは 8. ヴィジュアルマーチャンダイジングⅡ 12ヶ月のマーチャンダイジング計画 9. ヴィジュアルマーチャンダイジングⅢ 52週のマーチャンダイジング計画 10. ファッション商品売る販売促進手法Ⅰ POP、ダイレクトメール、チラシ作成 11. ファッション商品売る販売促進手法Ⅱ レイアウトとディスプレイ、照明、サイン計画 12. ファッション商品売る販売促進手法Ⅲ 販売テクニック・個人に似合う色とデザインを知る 13. 売り場作りと販促企画の演習Ⅰ 商品企画・構成、コンセプトに応じた売り場を作る 14. 売り場作りと販促企画の演習Ⅱ マーチャンダイジング計画にそった販促物の作成をする 15. 売り場作りと販促企画の演習Ⅲ 各グループ個人の発表と総合評価、15回のまとめ 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と演習						
評価方法 Evaluation	課題レポートと最終課題作品の評価						
履修上の注意 Requirements and policy	ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱ履修者でなくても受講できるが、履修者の方がより理解しやすい内容						
教科書 Textbook(s)	オリジナルテキスト (各項目でプリントして渡します)						
参考書 Reference(s)	各自で事前に買購入して頂く書籍は特になし、随時適切な資料や書籍を紹介しします						
備考 Remarks	日本色研事業株式会社 新配色カード199を購入して頂きます レポートや作品(成果物)を作成する用紙その他の材料は、指定しますので各自で購買部などで購入するなどして用意して頂きます (企画書のプリント用紙、着色用カラーペン、ファッション雑誌など)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論Ⅰ						
担当教員	石田原 弘						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>アパレル産業を中心とするファッション産業をハウジングやレジャー産業などまで視野に入れた広い意味での生活産業と位置づけ、その現状を、繊維素材、流通販売、企画広告宣伝などの関連業界の動向を含め、広い角度から概観する。</p> <p>また、ブランド、マーケティング、マーチャンダイジングなどの基本概念から、企画・生産・流通・消費のプロセスまでを理解し、消費生活における流行、ファッション性の意味を位置づける。</p> <p>本論はファッションビジネス論Ⅱと併せて同演習ⅠⅡⅢにおける実践的なビジネス体験への導入とする。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションビジネスとは ① 2. ファッションビジネスとは ② 3. アパレル産業、繊維産業の構造 ① 4. アパレル産業、繊維産業の構造 ② 5. アパレル素材産業の流通 6. アパレルメーカーの変遷と現状① 7. アパレルメーカーの変遷と現状② 8. アパレル小売業の変遷と現状 9. 百貨店の変遷と現状① 10. 百貨店の変遷と現状② 11. 量販店、ショッピングセンターの変遷と現状 12. アパレル専門店の変遷と現状 13. アウトレットの現状 14. SPAの変遷と現状 ① 15. SPAの変遷と現状 ② 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	主として講義、 また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の 見学を実施する可能性もあります。						
評価方法 Evaluation	課題レポートの提出（60％）および、出席状況（40％）						
履修上の注意 Requirements and policy	ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、 売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることにな る。						
教科書 Textbook(s)	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書 Reference(s)	特になし。						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論II						
担当教員	石田原 弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションビジネス論 I に続き、デザイナーをはじめとする専門職種の業務の実際、マーケティングやライフスタイル情報の収集、マーチャンダイジングの企画方法、ファッションコーディネートとスタイリング、ディスプレイなどファッションビジネスを支える実務に関する知識を体系的に習得する。 また、デザインの果たす役割、消費社会とライフスタイル、技術革新や環境問題などの要因も考慮し、消費者、生活者の視点から創造的なライフスタイルを提案できるファッションビジネスの在り方を探る。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨今のファッションビジネス 2. ファッションビジネスにおけるマーケティング 3. ファッション業界、繊維業界、アパレル業界 4. アパレルの流通 ① 5. アパレルの流通 ② 6. ファッションビジネスの計数知識 ① 7. ファッションビジネスの計数知識 ② 8. ファッションビジネスの計数知識 ③ 9. ファッションビジネスの計数知識 ④ 10. ファッションビジネスの販売戦略 11. ファッションビジネスの広告宣伝 12. 繊維素材の基礎知識 ① 13. 繊維素材の基礎知識 ② 14. 繊維素材の基礎知識 ③ 15. ファッションビジネスの変遷と現状
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	主として講義、 また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の 見学を実施する可能性もあります。
評価方法 Evaluation	課題レポートの提出（60%）および、出席状況（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、 売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることにな る。
教科書 Textbook(s)	特になし。 必要であればプリントを配布。
参考書 Reference(s)	特になし。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションブランド論						
担当教員	平芳 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代ファッションにおけるブランドの影響力は大きく、憧れの商品を手に入れることは消費者の夢でもある。この講義では代表的なファッション・ブランドを取り上げ、ブランド形成の歴史とデザイナー個人が果たす役割、ブランドの独自性と永続性、商品企画とメディア戦略、ブランド・イメージの意味について考える。また、日本人のブランド嗜好や現代日本におけるブランドの役割を考慮に入れながら、文化産業としてのブランドの象徴性や物語性等について考察する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス (授業の目的、概要、進行に関する説明) 2) ファッション・ブランドとは 3) ポール・ポワレ(1) : デザイナーとしてのポワレ 4) ポール・ポワレ(2) : ブランドとしての発展と限界 5) シャネル(1) : ガブリエル・シャネルの生涯と作品 6) シャネル(2) : シャネルという神話 7) シャネル(3) : 名としてのシャネル・スーツ 8) シャネル(4) : シャネルと現代のオートクチュール 1 9) シャネル(5) : シャネルと現代のオートクチュール2 10) エルメス(1) : 19世紀パリと馬車の文化 11) エルメス(2) : 馬具からファッションへ 12) ルイ・ヴィトン(1) : 19世紀パリと鉄道 13) ルイ・ヴィトン(2) : トランクからファッションへ 14) ルイ・ヴィトン(3) : LVMHのブランド展開 15) まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。
評価方法 Evaluation	授業中小レポート (50%) と期末テスト (50%) を実施する。 欠席は減点とする。
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁。
教科書 Textbook(s)	適宜、資料を配布する。
参考書 Reference(s)	山田登世子著『ブランドの世紀』マガジンハウス、2000年。 深井晃子編『ファッション ブランド・ベスト101』新書館、2001年。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習Ⅰ						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：ファッションデザインとテキスタイルデザインにおける企画力およびプレゼンテーションする力を学ぶ。</p> <p>衣服の企画、生産、消費の過程をよりよく理解するためには、そこで行われているプレゼンテーションに目を注ぐことが必要である。この演習では、過去から現在までのファッションのプレゼンテーションにはどのような種類、方法があるのか具体例を示して解説したのち、各自にどのような媒体、空間、機会がプレゼンテーションに利用されてきたのかということに関する資料の収集、調査、分析をさせる。さらに、それらの結果についての発表を行い、プレゼンテーションについての理解を深めさせる。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明—トレンド分析、フォトフォリオ制作」 2. ファッションアパレル市場の現状 3. 高感度ブランドの特質および高感度マーチャンダイジングの体系について調べる 4. フォトフォリオ制作のための基本要素の理解 5. ブランド診断 6. ターゲット設定 7.トレンド予測 8. コンセプト設定 9. テキスタイル選定 10. コンセプトによるブランドイメージマップ制作 11. テキスタイルイメージマップ制作 12. コンピュータソフトを利用したイメージマップ制作 - ① (PhotoshopおよびIllustratorを利用) 13. コンピュータソフトを利用したイメージマップ制作—② (PhotoshopおよびIllustratorを利用) 14. 評価 - ①(フォトフォリオプレゼンテーション) 15. 評価 - ②(フォトフォリオプレゼンテーション)
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし。やむをえない場合は、2/3以上の出席。作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習Ⅰ						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：ファッションデザインとテキスタイルデザインにおける企画力およびプレゼンテーションする力を学ぶ。</p> <p>衣服の企画、生産、消費の過程をよりよく理解するためには、そこで行われているプレゼンテーションに目を注ぐことが必要である。この演習では、過去から現在までのファッションのプレゼンテーションにはどのような種類、方法があるのか具体例を示して解説したのち、各自にどのような媒体、空間、機会がプレゼンテーションに利用されてきたのかということに関する資料の収集、調査、分析をさせる。さらに、それらの結果についての発表を行い、プレゼンテーションについての理解を深めさせる。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明—トレンド分析、フォトフォリオ制作」 2. ファッションアパレル市場の現状 3. 高感度ブランドの特質および高感度マーチャンダイジングの体系について調べる 4. フォトフォリオ制作のための基本要素の理解 5. ブランド診断 6. ターゲット設定 7.トレンド予測 8. コンセプト設定 9. テキスタイル選定 10. コンセプトによるブランドイメージマップ制作 11. テキスタイルイメージマップ制作 12. コンピュータソフトを利用したイメージマップ制作 - ① (PhotoshopおよびIllustratorを利用) 13. コンピュータソフトを利用したイメージマップ制作—② (PhotoshopおよびIllustratorを利用) 14. 評価 - ①(フォトフォリオプレゼンテーション) 15. 評価 - ②(フォトフォリオプレゼンテーション)
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし。やむをえない場合は、2/3以上の出席。作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習II						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この演習では制作者の立場から、ファッション・ショーというプレゼンテーションの仕組みを理解させ、より現実的な企画力を習得へ導く。初めにはファッション・ショーの歴史、役割、近年の事例について解説し、次に、ファッションショーの実施のために必要な様々な要素の総合的な提案をさせる。このとき、デザイン特別演習での制作を考慮し、その作品を含めたヴィジュアル資料の作成とプロジェクト全体のプレゼンテーションを行わせる。
授業計画 Syllabus	<p>1回. 授業の全体の流れについて説明する。</p> <p>2回. 興味を持つファッション商品について調べる。</p> <p>3回. アンケート調査のシートの作成</p> <p>4回. ファッションアイテムについて消費者の意識を調べる。</p> <p>5回～8回. ExcelおよびSPSSによる調査したデータの統計処理を行う。</p> <p>9回. 結果のまとめ方 パワーポイントおよびPhotoshop, Illustratorなどのパソコンツールを用いる</p> <p>10回. 新商品提案の企画 - ターゲット設定</p> <p>11回. トレンドの予測およびコンセプト設定</p> <p>12回. 商品構成</p> <p>13回. 新商品提案の企画 - デザイン・イメージにマッチした素材選定</p> <p>14回. ファッションアイテムのデザイン線画制作</p> <p>15回. 発表および評価</p>
参照URL Reference URL(s)	配布プリント参考
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	課題レポート (30%) と最終課題作品の評価 (20%)、出席状況 (50%)
履修上の注意 Requirements and policy	特になし
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションメディア演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッション写真、イメージ映像から、コレクションの展示、ファッションショーに至るまで、メディアを利用した多様なファッションイメージ表現の現状を踏まえ、優れた表現手法の分析・検討を通じて、オリジナルな発想に基づく写真・映像表現を提案する。また、そうした表現を素材に、特定のブランドを想定したDM, ポスター、雑誌広告などのメディア企画やデザインを試みる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「ファッションメディア」の分類と現状 3. ブランドプロモーションツールの種類（カタログ、DM、ショッピングカードなど） 4. ブランドプロモーションツールの収集・整理 5. ブランドロゴとタイポグラフィ 6. 仮想ブランドのロゴ制作 7. 仮想ブランドロゴの応用（Tシャツデザイン） 8. ブランドプロモーションツール研究（1）調査・企画・制作の選択 9. ブランドプロモーションツール研究（2）対象・範囲・方法の検討 10. ブランドプロモーションツール研究（3）コンセプト・計画の説明 11. 収集資料の要約・整理 12. レポート・提出物概要の検討 13. レポート・提出物制作（1） 14. レポート・提出物制作（2） 15. プレゼンテーションと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習・実技
評価方法 Evaluation	平常点（授業への積極的な参加、欠席の場合は減点）20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%
履修上の注意 Requirements and policy	分析・検討の対象となる既成のイメージ表現や、制作・企画対象となる映像やデザインは各自の関心により自由に選択できるものとする。従って、自身の興味や感性を明確に限定できることが望まれる。
教科書 Textbook(s)	特に無し。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ボディファッション論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。</p> <p>○授業の目的、概要 現代のファッションは衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めるに至っている。身体そのものを基盤とするようなこうしたファッション領域をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：人間はなぜ衣服を着るのか？ 2. なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 3. 身体の加工（コルセットや纏足など） 4. 衣服の始まりと役割 5. 衣服の社会性①（ジェンダー） 6. 衣服の社会性②（制服とは） 7. モード化する社会（流行の理論を考えよう） 8. 身体装飾①（化粧） 9. 身体装飾②（ボディーペインティング、タトゥーなど） 10. 世界モードと日本の衣服の交配（ハイブリット） 11. 「包む」文化と「着方」文化 12. 衣服のライフスタイル 13. 衣服とコミュニケーション 14. 肌で感じるファッション 15. からだの日本文化と試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験100%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：10回以上の出席がないと、受講資格失う。
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。
参考書 Reference(s)	<p>○参考書：パーナード・ルドフスキー著『みっともない人体』（鹿島出版会）</p> <p>鷲田清一著『ファッションという装置』（河合ブックレット17）</p> <p>ジョアン・フィンケルシュライン著、成実弘至訳『ファッションの文化社会学』（せりか書房）</p>
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	まちづくり論						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>前半は都市計画・まちづくりの歴史、後半は都市のあり方の新しい理論を学ぶ。 歴史ではおもに産業革命以降のイギリスにおける田園都市運動やフランスにおけるパリ大改造の話を中心とする。こうした歴史をへてうまれてきた都市計画の理論を学ぶ。 新しい理論のなかでは日常生活圏の重視・文化財の保全・脱自動車社会の試みなどが焦点となる。日本の都市計画法についてもそのしくみを概括的に学ぶ。 また、よりよい住宅・都市・地球環境をうみだすために、人間はいろいろな運動をしている。これらをできるだけ総合的に学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに—地域生活空間の学問 2 職住緑近接 3 居住地の構成 4 世界の大都市 5 中小都市・農村・ニュータウン 6 都市論の基礎+テスト1ま 7 産業革命が出发点19世紀のイギリス 8 パリ大改造 9 田園都市論 10 日本の都市計画のしくみ 11 都市計画史の+まとめ 12 新しいまちづくりの考え方 13 人間的な交通・景観 14 地球環境問題 15 新しいまちづくり+テスト2
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	映像を多用する講義
評価方法 Evaluation	授業中に行う2回のテストにより、100%の評価を行う 授業への参加の積極性を加味する場合もある
履修上の注意 Requirements and policy	多角的な考察が必要である すくなくとも歴史に興味をもつこと
教科書 Textbook(s)	図解住居学編集委員会編（彰国社）『図解住居学1 住まいと生活』 2年次以降の「景観論」「建築計画学」でも使う
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフスタイル論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：生活文化を軸としてライフスタイルを考える。</p> <p>○授業内容 ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後の経済発展とライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化とライフスタイル、レジャー・スポーツと衣食住、生活創造産業とライフスタイル・マーケティング、少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイル、エコロジーや省資源・省エネルギーとライフスタイルなどの観点からライフスタイルについて考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明 2. ライフスタイルとは何か？ 3. 家庭生活と家族Ⅰ ー家庭と家族のあり方の変化ー 4. 家庭生活と家族Ⅱ ー女性のライフスタイルの変化ー 5. 家族周期と個人のライフスタイル 6. ライフデザイン（生活設計）とその考え方 7. 世代によって異なるライフデザイン 8. 生活時間の管理・労働・余暇 9. 高齢者の経済生活とライフスタイル 10. 生活行動と消費の文化 11. 衣生活とライフスタイルーファッション革命ー 12. 雑誌から読み取るライフスタイル 13. ライフスタイルの社会調査 14. ライフスタイル分析 15. 新たな都市におけるライフスタイル
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験50%、レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を必ず提出する。
教科書 Textbook(s)	○教科書・参考書：プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	○参考書は、授業中に紹介する。
備考 Remarks	